

令和2年7月22日



科学と実学

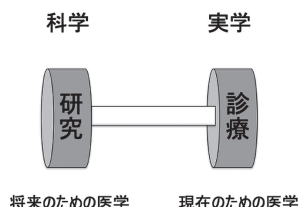
一般消化器外科 准教授 鈴木 浩一



生命科学は医学と非常に密接な関係にあり、もはや一つの学問として融合されているように思われますが、一昔前までは医学と生命科学はとともかけ離れた学問でした。生命科学は生命の原理を因果関係に基づいて理論体系化する科学である一方、医学は実学であり大部分を経験に依存していました。そのため、昔我々が受けた医学教育はロジックに乏しく、とても退屈なものでした。けれども時代は一変し、生命科学の理論が医学に流れ込んできました。それはそう昔の話ではありません。

1950年にDNAの二重らせんが発見され、サンガー法の開発により遺伝子塩基配列の同定が可能となり、PCRの考案によりゲノム解析が飛躍的に発展しました。二重らせんの発見から半世紀、21世紀になってはじめてヒトの全ゲノムが解読され、siRNAの技術で遺伝子の発現制御が可能となり、iPS細胞は臨床応用を実現化しました。ただそれは、ほんの少し前のことです。生命科学の進歩は医学の発展に多大な貢献をし、臨床応用される迄に浸透してきたといえます。21世紀になって初めて、医学は経験による実学から、因果関係を明らかにすることによって成立する理論体系、科学となったわけです。

医学は科学と実学という2つの側面を有する特異な学問であると九州大学の中山敬一先生は述べています。科学である研究と実学である診療が車の両輪のように同時に進行しなければならない。医学は、現在のための医学である診療と将来のための



医学である研究の二つの構成要素から成り立っています。これまでは生命科学の分野から生まれた技術や情報を医学に導入していましたが、これからは診療を科学する素地が生まれてきました。診療から浮かび上がった疑問を、因果関係を明らかにすることによって証明する事ができるのが、医学部大学院の一つの特徴でもあり、意義、使命でもあります。しかし、因果関係を明らかにする事はそう簡単ではなく、しっかりと理論体系を学んでいないと誤った結論に陥ってしまう危険性があります。

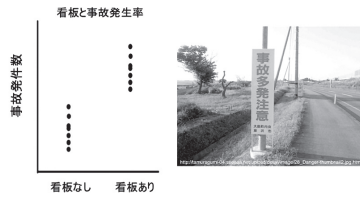
【因果関係と相関関係】

「学力」の経済学という本が話題となっています。今まで「思い込み」で語られてきた教育の効果を、科学的根拠から解き明かした話題作です。著者の中室牧子先生は、文部科学省の行った全国学力・学習実況調査結果に注目しました。文部科学省はその調査結果から「親の年収や学歴が低くても学力が高い児童の特徴は家庭で読書をしている事」という分析をしています。この結果をうけて、多くのメディアは子供に学習をさせることが重要であると報道しています。さてこれは正しいのでしょうか。「読書をしているから学力が高い」、学力の向上という結果は、読書という原因によってもたらされたという因果関係が成り立つと考えてしまいますが、必ずしもそうではありません。読書と学力は因果関係を有しているのではなく相関関係に過ぎない。学力が高い子が、読書をしているという可能性を排除できません。表面的な解釈から因果関係を見誤ると、「読書をすることが原因で、学力が高くなる結果がもたらされた」かどうかははっきりしないのに子供に本を買い与たりえ、読み聞かせをしたら、お

金と時間の無駄使いになってしまうかもしれません。

看板の設置と事故の発生の関係を見てみましょう。「事故多発注意」の看板が

ある場所とない場所の事故発生率が右図です。この結果を安易に解釈すると、「看板をたてるから事故が増えてしまう、はやく看板を取りはずせ！」という結論に至ってしまいます。事故の発生が高いから看板を設置したという因果の逆の流れに、時として気がつかない事があるようです。



「看板あり→事故発生率高い」という因果関係？

【バイアス】

スポーツ選手の年収がよく話題となります。これは一部の非常に能力のある人たちのことでスポーツと年収に関係があると思う人はいないと思います。ただ検証しないと分かりません。しかしその背景には様々なバイアスが存在し、検証を困難にしてきました。このバイアスを取り除くため一卵性双生児が対象になりました。一卵性双生児であれば遺伝的性質が一緒で、家庭環境も同じです。一卵性双生児でスポーツをやっていた側と、やっていない側で調査し、スポーツと収入の因果関係を突き止めました。スポーツをやっていると正社員になる可能性が高く、また収入も4～5%がアップするという結果が得られました。バイアスを取り除く事で因果関係が明らかになりました。では、



なぜスポーツをすると年収が高くなるのでしょうか？スポーツをすることで「忍耐力」や「リーダーシップ」を獲得するから収入が上がるのではないかと考えられています。

【エピゲノム】

一卵性双生児は全く同一の遺伝子配列を持っています。彼らは、顔かたちがそっくりで、同じような行動をし、同じような病気になります。しかし年月が経つと、性格が変わり、顔つき、罹る病気も異なります。どうしてこのようなことが起こるのかスペインの科学者が80人の一卵性双生児を調べました。すると彼らの遺伝子の発現は年をとるにつれて大きく異なってくる事が分かりました。全く同一の遺伝子配列なのに、何が遺伝子発現に違いをもたらしたのでしょうか？その原因のひとつがDNAメチル化修飾で、もう一つがヒストンメチル化修飾である事が明らかになりました。メチル化修飾は後天的に遺伝子に書き込まれる形質のことで、遺伝子修飾（エピゲノム）と呼ばれます。一卵性双生児は家庭環境が同じであると述べましたが、それは子供の頃の話で、違う大学に進み、異なる職業に就き、それぞれ別の家庭を持つと環境は大幅に変わります。この生活や環境の違いが後天的に遺伝子に変化を与える事で、一卵性双生児の個性の違いを創出してきたわけです。この遺伝子の書き込みは、当然一卵性双生児だけでなく我々にも起こります。自分のおかれた環境、働いている組織そして生活習慣が我々の遺伝子に直接働きかけ、それぞれの人間形成に深く関わっているのです。そしてこの後天的に得られた形質の一部は子孫にも受け継がれて行くのです。

ゲノムを紐解く研究は日常とかけ離れた科学分野のようで、多分に実学の側面がある非常に興味深い研究テーマです。

研究の成果

総合医学 1

■ 循環器内科

・2019年11月～2020年4月 及び前回未掲載分

【原著論文】

- 1) Yamamoto K, Sakakura K, Hamamoto K, Hasegawa H, Tsukui T, Seguchi M, Taniguchi Y, Wada H, Momomura S, Fujita H : Determinants of Greater Peak radiation skindose in percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion, J Cardiol : S0914-5087 (20) 30077-0, doi:10.1016/j.jjcc, 2020.
- 2) Haraguchi Y, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura SI, Fujita H : Determinants of Insufficient Optimal Medical Therapy after Acute Myocardial Infarction, Intern Med : doi10.2169/internalmedicine, 4016-19, 2020.
- 3) Kasahara T, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura SI, Fujita H : Clinical Factors Associated with In-Hospital Mortality in Patients

- with Acute Myocardial Infarction Who Required Intra-Aortic Balloon Pumping, *Int Heart J*: 28;61 (2): 209-214, Doi, 10.1536/ihj.19-368, 2020.
- 4) Sasaki W, Wada H, Sakakura K, Matsuda J, Ibe T, Hayashi T, Ueba H, Momomura S, Fujita H: Coronary vasospasm induced by cisplatin for seminoma: *Clin CaseRep*, 19;8 (1): 190-193, doi: 19;8 (1): 190-193, doi:10.1002/ccr3.2601, eCollection 2020.
 - 5) Tsukui T, Sakakura K, Momomura S, Fujita H: A novel method for prevention of intravascular ultrasound catheter entrapment using soft guide extension catheter, *Cardiovascdoi catheter*: 10.1007/s12928-020-00644-8, 2020.
 - 6) Seguchi M, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Wada H, Momomura S, Fujita H: Comparison of In-Hospital Clinical Outcomes of Acute Myocardial Infarction Between Nonagenarians and Octogenarians: *Int Heart J*, 31;61 (1): 7-14. doi: 10.1536/ihj.19-266, 2020.
 - 7) Kasahara T, Sakakura K, Momomura S, Fujita H: A modified reverse guidewire technique for a Crusade-uncrossable bifurcation lesion: *J Cardiol Cases*, 13-21 (1): 32-34, doi:10.1016/j.jccase. eCollection 2020.
 - 8) Taniguchi Y, Sakakura K, Yuri K, Imamura Y, Tsukui T, Yamamoto K, Wada H, Momomura S, Yamaguchi A, Fujita H: Determinants of prolonged hospitalization in patients who underwent trans-femoral transcatheter aortic valve implantation. *Postepy Kardiol Interwencyjne*. 15 (4): 431-438. doi: 10.5114/aic. 2019.
 - 9) Watanabe Y, Sakakura K, Fujita H, Ohya M, Horie K, Yamanaka F, Nakazawa G, Otake H, Shiomi H, Natsuaki M, Ando K, Kadota K, Saito S, Kimura T, Kuramitsu S: REAL-ST Registry Investigators. Comparison of Clinical Characteristics of Stent Thrombosis Between the Right Coronary Artery and the Left Coronary Artery - A Subanalysis of the REAL-ST Registry. *Circ J*. 24;84 (2): 169-177, doi:10.1253/circj.CJ-19-0885, 2020.
 - 10) Taniguchi Y, Sakakura K, Yuri K, Nomura Y, Tamanaha Y, Akashi N, Tsukui T, Yamamoto K, Wada H, Momomura S, Yamaguchi A, Fujita H: Appetite Predicts Clinical Outcomes in High Risk Patients Undergoing Trans-Femoral TAVI. *Int Heart J*. 30;60 (6): 1350-1357 doi:10.1536/ihj. 19-258, 2020.
 - 11) Ohashi J, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Tsukui T, Seguchi M, Nanba-Sato H, Shibata K, Sasaki W, Ikeda T, Wada H, Momomura S, Fujita H: Determinants of Improvement of Mid-term Ejection Fraction in Patients with Acute Myocardial Infarction. *Int Heart J*. 30;60 (6): 1245-1252, doi:10.1536/ihj.19-126, 2020.
- 【著書・総説】**
- 1) 和田 浩、藤田英雄:「心疾患罹患患者の非心臓手術の術前評価と術前・術後管理のポイント」月刊 *Heart View* Vol.23 No.10, 2019.
- 【学会発表】**
- 1) 伊部達郎:「肺高血圧の鑑別と治療」, 第255回日本循環器学会関東甲信越地方会 研修医セッション講演, 2020年2月22日, 東京.
 - 2) 宇賀田裕介:「ペースメーカーは植込み術後のフォローが大切」, 第255回日本循環器学会関東甲信越地方会 研修医セッション講演, 2020年2月22日, 東京.
 - 3) 成田昌隆, 宇賀田裕介, 矢那瀬智信, 水野雄介, 可児邦広, 大橋潤平, 浅田哲史, 柴田佳穂, 田島亜佳里, 明石直之, 山本真吾, 津久井卓伯, 伊部達郎, 山本慶, 瀬口優, 谷口陽介, 和田浩, 坂倉建一, 三橋武司, 百村伸一, 藤田英雄:「好酸球性心筋炎に腸管穿孔を合併し、経皮的心肺補助装置を要した1例」, 第255回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2020年2月22日, 東京.
- 【研究会】**
- 1) 堀 陽一:「失神を契機に診断された全身性疾患の1例」第14回埼玉急性心不全フォーラム, 2020年2月18日, さいたま市.
 - 2) 窪田雅之, 伊部達郎, 和田 浩:「原因不明の心肥大を呈した若年者の経験より」心臓病理研究会, 2020年1月11日, 市川市.
 - 3) 谷口陽介:「心房細動合併の虚血性心疾患及び弁膜症 Up to Date」エリアWebセミナー In Saitama, 2019年12月24日, さいたま市.
 - 4) 和田 浩:「循環器内科医の立場からみた肺動脈性肺高血圧の診断と治療」神奈川県内科医学会心臓血管病対策委員会・リウマチ膠原病対策委員会 学術講演会, 2019年11月27日, 横浜市.
 - 5) 谷口陽介:「超高齢社会における心臓弁膜症の早期発見・診断～補聴器一つで誰でも早期発見～」

第11回大宮内科医会学術講演会, 2019年11月5日, さいたま市.

- 6) 梅本富士:「症例を通して学ぶ心不全の診断と治療～ガイドラインを活用し心不全パンデミックに備える～」さいたま糖尿病合併症ネットワーク 2019, 2019年10月16日, さいたま市.

■ 消化器内科

【原著論文】

- 1) Mashima H, Takahashi K, Sekine M, Matsumoto S, Asano T, Uehara T, Fujiwara J, Otake H, Ishii T, Yoshikawa S, Miura T, Koito Y, Kashima H, Matsumoto K, Ohnishi H. The role of calcium-binding protein S100g (CalbindinD-9K) and annexin A10 in acute pancreatitis. *Biochem Biophys Res Commun.* 2020 Apr 2. pii: S0006-291X (20) 30653-7. doi: 10.1016/j.bbrc. 2020. 03. 155. [Epub ahead of print]
- 2) Sekine M, Fujiwara J, Mashima H. A novel method of triple stenting in patients with malignant hilar biliary obstruction: triple stenting abreast method. *Endoscopy.* 2020 Feb 17. doi: 10.1055/a-1108-1337. Online ahead of print
- 3) Fujiwara J, Matsumoto S, Yamanaka K, Sekine M, Ishii T, Ajimine T, Mashima H. Introduction of gastric endoscopic submucosal dissection and skill acquisition in a regional hospital. *JGH Open: An open access journal of gastroenterology and hepatology* 4 (2020) 230-235
- 4) 眞嶋浩聡、関根匡成、大西洋英：急性膵炎発症のメカニズム。胆と膵 第40巻臨時増刊特大号 特集 膵炎大全II～膵炎・Up to date～, 1065-1072, 2019
- 5) 宮谷博幸：胃がん検診における内視鏡観察のコツと診断の基礎。埼玉県医学会雑誌2020；54：479-485.
- 6) 小島 柁, 浅野岳晴, 吉川修平, 大竹はるか, 藤原純一, 関根匡成, 上原健志, 湯橋一仁, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：A型肝炎の炎症改善後も黄疸遷延した1例。埼玉県医学会雑誌 54 (1): 220-223, 2019
- 7) 小関悠介, 石井剛弘, 森野美奈, 小糸雄大, 賀嶋ひとみ, 三浦孝也, 大竹はるか, 松本吏弘, 田中 亨, 眞嶋浩聡：4年の経過で局所再発・転移再発を来したpT1a (SM) 大腸癌の1例。埼玉県医学会雑誌 54 (1) : 246-251, 2019
- 8) 松本博成, 石田茂夫, 関根匡成, 松本圭太, 三浦孝

也, 小糸雄大, 坪井瑠美子, 町田枝里華, 佐藤あい, 辻仲眞康, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：大腸内視鏡検査費用 日本と諸外国、主に米国との比較。埼玉県医学会雑誌 54 (1): 241-245, 2019

【学会発表】

- 1) Yoshikawa S, Asano T, Mashima H. : ALBI grade transition in lenvatinib treatment for unresectable hepatocellular carcinoma (web参加 ePoster発表), APASL (アジア太平洋肝臓学会) 2020, 2020年3月4-8日, インドネシア
- 2) 松本吏弘, 大竹はるか, 眞嶋浩聡：クローン病における瘻孔への挑戦～内視鏡を用いた瘻孔閉鎖～第61回日本消化器病学会大会 (JDDW2019), 神戸, 2019.11.21-24. (ワークショップ)
- 3) 関根匡成、三浦孝也、眞嶋浩聡：術後胆管空腸吻合狭窄に対してSEMS2本留置が有効であった1例。第55回日本胆道学会学術集会、名古屋、2019.10.3-4.
- 4) 浅野岳晴, 吉川修平, 森野美奈, 松本圭太, 小糸雄大, 賀嶋ひとみ, 三浦孝也, 高橋裕子, 石井剛弘, 坪井瑠美子, 大竹はるか, 藤原純一, 関根匡成, 上原健志, 湯橋一仁, 松本吏弘, 浅部伸一, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：B型慢性肝炎に対するテノホビル・アラフェナミドの治療初期における有効性評価 第61回日本消化器病学会大会 (JDDW2019), 神戸, 2019.11.21-24.
- 5) 藤原純一, 宮谷博幸, 松本吏弘, 浅野岳晴, 上原健志, 関根匡成, 大竹はるか, 吉川修平, 石井剛弘, 坪井瑠美子, 三浦孝也, 高橋裕子, 賀嶋ひとみ, 小糸雄大, 森野美奈, 眞嶋浩聡：当院における重症急性膵炎患者のWON発生の因子とドレナージ、転帰についての検討 第98回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW2019), 神戸, 2019.11.21-24.
- 6) 上原健志, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：大腸憩室出血の出血部位同定予測のためのスコアリングシステムを検証する前向き研究：中間解析。第109回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2019年12月14-15日, 東京 (シンポジウム)
- 7) 蓮沼潤, 藤原純一, 松本圭太, 賀嶋ひとみ, 小糸雄大, 三浦孝也, 高橋裕子, 坪井瑠美子, 石井剛弘, 吉川修平, 大竹はるか, 関根匡成, 上原健志, 浅野岳晴, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：肝切後胆汁漏に対して内視鏡的及び経皮的治療が奏功した1例。日本消化器内視鏡学会埼玉部会 第45回学術講演会、2019年11月30日、大宮
- 8) 関根匡成, 大竹はるか, 吉川修平, 藤原純一, 上原健志, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡：胆膵癌に

対する内視鏡診断の有用性—ERCPの観点から
(ワークショップ 胆膵内視鏡の最前線)。日本消化器内視鏡学会埼玉部会 第45回学術講演会、
2019年11月30日、大宮

- 9) 萩原拓哉, 松本圭太, 松本吏弘, 森野美奈, 賀嶋ひとみ, 小糸雄大, 三浦孝也, 高橋裕子, 坪井瑠美子, 石井剛弘, 吉川修平, 大竹はるか, 藤原純一, 関根匡成, 上原健志, 浅野岳晴, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡: 経カテーテル動脈塞栓術が奏功した虫垂憩室出血の1例。第357回日本消化器病学会関東支部例会, 2019年12月7日, 東京
- 10) 小島 柁, 賀嶋ひとみ, 石井剛弘, 森野美奈, 松本圭太, 小糸雄大, 三浦孝也, 高橋裕子, 坪井瑠美子, 吉川修平, 大竹はるか, 藤原純一, 関根匡成, 上原健志, 浅野岳晴, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡: Roux-en Y 再建後輸入脚盲端異物の穿通により肝膿瘍を来した一例。第109回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2019年12月14-15日, 東京
- 11) 佐藤杏美, 浅野岳晴, 森野美奈, 松本圭太, 小糸雄大, 賀嶋ひとみ, 三浦孝也, 高橋裕子, 石井剛弘, 坪井瑠美子, 吉川修平, 大竹はるか, 藤原純一, 関根匡成, 上原健志, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡: 非B非C肝のPedunculated lobeに発生した肝細胞癌破裂の一例。第358回日本消化器病学会関東支部例会, 2020年2月22日, 東京
- 12) 中野 優, 賀嶋ひとみ, 石井剛弘, 浅野岳晴, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡: 大腸EMR後に肝膿瘍を来した一例。第57回埼玉県医学会総会, 2020年2月23日、浦和。(中止)
- 13) 松本博成, 石田茂夫, 関根匡成, 三浦孝也, 小糸雄大, 坪井瑠美子, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡: 大腸内視鏡挿入時間と腫瘍検出率をもとにした新しい腸管洗浄効果判定法の提案。第57回埼玉県医学会総会, 2020年2月23日、浦和。(中止)

【その他】

- 1) 宮谷博幸: GERD長期治療における薬剤選択. 消化器病 UP TO DATE (Web 講演会). 2019年10月17日, さいたま市
- 2) 宮谷博幸: GERDの診断と治療. Takeda Web Seminar. 2019年11月6日, 東京
- 3) 松本吏弘: 生物学的製剤によるUC治療のコツ～抗TNF- α 3製剤のポジショニングを考える～潰瘍性大腸炎 Clinical Seminar in 深谷, 2019年12月2日、深谷市
- 4) 松本吏弘: 慢性便秘症の診断と治療～新薬の効果と使い分けを踏まえて～. 吉川松伏医師会学術講演会, 2020年1月27日、吉川市

- 5) 松本吏弘: 増加する炎症性腸疾患～潰瘍性大腸炎 A to Z～埼玉県外科医会学術講演会、2020年2月20日、越谷市
- 6) 浅野岳晴: レンバチニブ使用中の副作用マネジメント, 第8回Saitama Liver Club, 2019年11月1日, さいたま
- 7) 浅野岳晴: HCV撲滅を目指したHCV拾い上げと院内・地域連携のポイント, 東部消化器病疾患連携勉強会, 2019年11月15日, 仙台
- 8) 浅野岳晴: 消化器内科におけるTG介入の意義, 彩の国TGと各疾患の関連を考える会, 2019年11月27日, さいたま
- 9) 浅野岳晴: 肝機能障害, 令和元年度身体障害者福祉法第15条指定医師研修会, 2020年2月2日, さいたま
- 10) 浅野岳晴: 日常診療における肝機能障害の見方, 彩の国消化器研究会, 2020年2月18日, さいたま

【著書】

- 1) 浅野岳晴: ①脾リンパ管腫, ②脾血管腫, ③脾過誤腫, ④脾血管内皮腫, ⑤脾症, ⑥脾のう胞, ⑦脾膿瘍, ⑧脾動脈瘤 今日疾患辞典 デジタル版 (Current Decision Support (CDS))

■ 呼吸器内科

令和元年11月～令和2年4月分

【原著論文】

- 1) Ogura T, Takigawa N, Tomii K, Kishi K, Inoue Y, Ichihara E, Homma S, Takahashi K, Akamatsu H, Ikeda S, Inase N, Iwasawa T, Ohe Y, Ohta H, Onishi H, Okamoto I, Ogawa K, Kasahara K, Karata H, Kishimoto T, Kitamura Y, Gemma A, Kenmotsu H, Sakashita H, Sakamoto S, Sekine K, Takiguchi Y, Tada Y, Toyooka S, Nakayama Y, Nishioka Y, Hagiwara K, Hanibuchi M, Fukuoka J, Minegishi Y, Yanagihara T, Yamamoto N, Yamamoto H, Gaga M, Fong KM, Powell CA, Kiura K: DLD/TO Assemblies of JRS. Summary of the Japanese Respiratory Society statement for the treatment of lung cancer with comorbid interstitial pneumonia. *Respir Investig.* 57: 512-533, 2019.
- 2) Ishii M, Yamaguchi Y, Hamaya H, Ogawa S, Imura M, Akishita M: Characteristics of factors for decreased lung function in elderly patients with type 2 diabetes. *Sci Rep* 9: 20206, 2019.

- 3) Yamaguchi Y, Shiota S, Kusunoki Y, Hamaya H, Ishii M, Kodama Y, Akishita M, Kida K, Takahashi K, Nagase T, Fukuchi Y : Polysomnographic features of low arousal threshold in overlap syndrome involving obstructive sleep apnea and chronic obstructive pulmonary disease. *Sleep Breath*. 23: 1095-1100, 2019.
- 4) Yanagitani N, Uchibori K, Koike S, Tsukahara M, Kitazono S, Yoshizawa T, Horiike A, Ohyanagi F, Tambo Y, Nishikawa S, Fujita N, Katayama R, Nishio M : Drug resistance mechanisms in Japanese anaplastic lymphoma kinase-positive non-small cell lung cancer and the clinical responses based on the resistant mechanisms. *cancer Sci*. 111: 932-939, 2020.
- 5) Nomura M, Ohta H, Hiruta M, Kudo F, Ohyanagi F, Yamaguchi Y. Steroid resistance in organizing pneumonia caused by pulmonary cryptococcosis. *Respirol Case Rep*. 8: e00556, 2020.

【学会発表】

- 1) 大柳文義、水品佳子、野村基子、工藤史明、椎原淳、太田洋充、山口泰弘: EGFR遺伝子変異陽性肺癌に対する第一、第二世代EGFR-TKI治療後の再発部位とT790M発現の検討. 第60回日本肺癌学会学術集会. 2019年12月6-8日、大阪
- 2) 甘利ひかり、野村基子、太田洋充、工藤史明、椎原淳、水品佳子、大柳文義、秋元真穂、田中亨、峯岸健太郎、坪地宏嘉、山口泰弘: 両側胸水をきたした Gorham-Stout Disease の一例. 第238回日本呼吸器学会関東地方会. 2020年2月15日、東京

【総説】

- 1) 山口泰弘: 【高齢者呼吸器疾患の診断から看取りまで】序文. *Geriatric Medicine* 58 (4), 279, 2020.
- 2) 太田洋充: 【高齢者呼吸器疾患の診断から看取りまで】間質性肺炎up to date. *Geriatric Medicine* 58 (4), 285-290, 2020.
- 3) 工藤史明: 【高齢者呼吸器疾患の診断から看取りまで】肺結核と肺非結核性抗酸菌症. *Geriatric Medicine* 58 (4), 311-315, 2020.

■ 血液科

2019年1月～12月

【原著論文】

- 1) Wakamatsu M, Terakura S, Ohashi K, Fukuda T, Ozawa Y, Kanamori H, Sawa M, Uchida N, Ota S, Matsushita A, Kanda Y, Nakamae H, Ichinohe T, Kato K, Murata M, Atsuta Y, Teshima T. Impacts of thymoglobulin in patients with acute leukemia in remission undergoing allogeneic HSCT from different donors. *Blood Advances* 3:105-115, 2019
- 2) Konuma T, Kondo T, Kawata T, Iwato K, Sato Y, Mori T, Ohashi K, Nakazawa H, Sugahara H, Ago H, Eto T, Imamura Y, Fukuda T, Kanda Y, Atsuta Y, Yano S. Hematopoietic cell transplantation for acute panmyelosis with myelofibrosis: A retrospective study in Japan. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 25:e23-e27, 2019
- 3) Konuma T, Shimomura Y, Ozawa Y, Ueda Y, Uchida N, Onizuka M, Ohashi K, Mori T, Nakamae H, Ohno Y, Shiratori S, Onishi Y, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Ishiyama K. Induction chemotherapy followed by allogeneic HCT versus upfront allogeneic HCT for advanced myelodysplastic syndrome: a propensity score matched analysis. *Hematological Oncology* 37:85-95, 2019
- 4) Morita K, Fujiwara S, Ashizawa K, Yamamoto Y, Oshiro H, Kanda Y. TAFRO syndrome with an anterior mediastinal mass and lethal autoantibody-mediated thrombocytopenia: An autopsy case report. *Acta Haematologica* 141:158-163, 2019
- 5) Minakata D, Fujiwara S, Hayakawa J, Nakasone H, Ikeda T, Kawaguchi S, Toda Y, Ito S, Ochi S, Nagayama T, Mashima K, Umino K, Nakano H, Yamasaki R, Morita K, Kawasaki Y, Sugimoto M, Yamamoto C, Ashizawa M, Hatano K, Sato K, Oh I, Ohmine K, Muroi K, Ohmori T, Kanda Y. Comparison of danaparoid sodium and synthetic protease inhibitors for disseminated intravascular coagulation associated with hematological malignancies: A retrospective analysis. *International Journal of Hematology* 109:141-146, 2019

- 6) Kako S, Gomyo A, Akahoshi Y, Harada N, Kameda K, Ugai T, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kimura SI, Kikuchi M, Nakasone H, Kanda J, Kanda Y. Haploidentical transplantation using low-dose alemtuzumab: Comparison with haploidentical transplantation using low-dose thymoglobulin. *European Journal of Hematology* 102:256-264, 2019
- 7) Umino K, Fujiwara S, Minakata D, Yamamoto C, Meguro A, Matsuyama T, Sato K, Ohmine K, Izumi T, Muroi K, Kanda Y. Prognostic impact of serum soluble interleukin-2 receptor level at diagnosis in elderly patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with R-CHOP. *Leukemia and Lymphoma* 60:734-741, 2019
- 8) Mashima K, Ikeda T, Toda Y, Ito S, Umino K, Minakata D, Nakano H, Yamasaki R, Kawasaki Y, Sugimoto M, Ashizawa M, Yamamoto C, Fujiwara S, Hatano K, Sato K, Oh I, Ohmine K, Muroi K, Kanda Y. Associations between the peripheral blood Wilms tumor gene 1 level and both bone marrow blast cells and the prognosis in patients with myelodysplastic syndrome. *Leukemia and Lymphoma* 60:703-710, 2019
- 9) Atsuta Y, Kato S, Morishima Y, Ohashi K, Fukuda T, Ozawa Y, Eto T, Iwato K, Uchida N, Ota S, Onizuka M, Ichinohe T, Kanda J, Kanda Y. Comparison of HLA allele mismatch and antigen mismatch in unrelated bone marrow transplantation in patients with leukemia. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 25:436-442, 2019
- 10) Fujisawa S, Ueda Y, Uski K, Kobayashi H, Kondo E, Doki N, Nakao T, Kanda Y, Kosugi N, Kosugi H, Kumagai T, Harada H, Shikami M, Maeda Y, Sakura T, Inokuchi K, Saito A, Nawa Y, Ogasawara M, Nishida J, Kondo T, Takahashi T, Yoshida C, Kuroda H, Tabe Y, Maeda Y, Imajo K, Sakura T, Kojima K, Morita S, Komukai S, Kawaguchi A, Sakamoto J, Kimura S. Imatinib Stop Study Feasible to Japanese Clinical Setting: Delightedly Overcome CML Expert Stop TKI Trial (DOMEST Trial). *International Journal of Clinical Oncology* 24:445-453, 2019
- 11) Yanada M, Masuko M, Mori J, Aoki J, Mizuno S, Fukuda T, Kakihana K, Ozawa Y, Ota S, Kanamori H, Mori T, Eto T, Shiratori S, Maeda T, Iwato K, Ichinohe T, Kanda Y, Tanaka J, Atsuta Y, Yano S. Patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic hematopoietic cell transplantation: trends in survival during the past two decades. *Bone Marrow Transplantation* 54:578-586, 2019
- 12) Nakasone H, Tabuchi K, Uchida N, Ohno Y, Matsushashi Y, Takahashi S, Onishi Y, Onizuka M, Kobayashi H, Fukuda T, Ichinohe T, Takanashi M, Kato K, Atsuta Y, Yabe H, Kanda Y. Hideki Nakasone, Ken Tabuchi, Naoyuki Uchida, Yuju Ohno, Yoshiko Matsushashi, Satoshi Takahashi, Yasushi Onishi, Makoto Onizuka, Hikaru Kobayashi, Takahiro Fukuda, Tatsuo Ichinohe, Minoko Takanashi, Koji Kato, Yoshiko Atsuta, Hiromasa Yabe, Yoshinobu Kanda. Which is more important for the selection of cord blood units for hematopoietic cell transplantation: the number of CD34-positive cells or total nucleated cells? *British Journal of Haematology* 185:166-169, 2019
- 13) Kurosawa S, Yamaguchi T, Oshima K, Yanagisawa A, Fukuda T, Kanamori H, Mori T, Takahashi S, Kondo T, Fujisawa S, Onishi Y, Yano S, Onizuka M, Kanda Y, Mizuno I, Taniguchi S, Yamashita T, Inamoto Y, Okamoto S, Atsuta Y. Employment status was highly associated with quality of life after allogeneic hematopoietic cell transplantation, and the association may differ according to patient age and graft-versus-host disease status: analysis of a nation-wide QOL survey. *Bone Marrow Transplantation* 54:611-615, 2019
- 14) Kawasaki Y, Kimura SI, Nakano H, Mashima K, Shirato Y, Kawaguchi S, Toda Y, Ochi S, Nagayama T, Minakata D, Yamasaki R, Morita K, Ashizawa M, Yamamoto C, Hatano K, Sato K, Oh I, Fujiwara S, Ohmine K, Kako S, Muroi K, Kanda Y. Comparison of the neutropenia profiles in different treatment protocols for acute myeloid leukemia using the D-index. *International Journal of Hematology* 109:470-476, 2019
- 15) Kameda K, Kimura SI, Masaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Hayakawa J, Tamaki M, Kusuda M, Akahoshi Y, Ugai T, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Tanihara A, Wada H, Sato M, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Nakasone H,

- Kako S, Kanda Y. Association between febrile neutropenia-related parameters and the risk of acute graft-versus-host disease or non-relapse mortality after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 54:707-716, 2019
- 16) Maeda Y, Ugai T, Kondo E, Ikegame K, Murata M, Uchida N, Miyamoto T, Takahashi S, Ohashi K, Nakamae H, Fukuda T, Onizuka M, Eto T, Ota S, Hirokawa M, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda Y, Kanda J. HLA discrepancy between graft and host rather than that graft and first donor may impact the second transplant outcome: A retrospective analysis by the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. *Haematologica* 104:1055-1061, 2019
- 17) Mashima K, Ikeda T, Kawaguchi S, Toda Y, Ito S, Ochi S, Nagayama T, Umino K, Minakata D, Nakano H, Yamasaki R, Morita K, Kawasaki Y, Sugimoto M, Ishihara Y, Ashizawa M, Yamamoto C, Fujiwara S, Hatano K, Sato K, Oh I, Ohmine K, Muroi K, Kanda Y. Comparison of blast percentage calculated based on bone marrow all nucleated cells and non-erythroid cells in myelodysplastic syndromes with erythroid hyperplasia. *Annals of Hematology* 98:1127-1133, 2019
- 18) Takamatsu H, Yamashita T, Kurahashi S, Saitoh T, Kondo T, Maeda T, Nakazawa H, Murata M, Narita T, Kuroda J, Hashimoto H, Kawamura K, Miyamoto T, Honda S, Ichinohe T, Atsuta Y, Sunami K. Clinical Implications of t (11;14) in Patients with Multiple Myeloma Undergoing Autologous Stem Cell Transplantation. *Biology of Blood and Marrow Transplantation*. 25:474-479, 2019
- 19) Mori T, Onishi Y, Ozawa Y, Kato C, Kai T, Kanda Y, Kurokawa M, Tanaka M, Ashida T, Sawayama Y, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yamazaki H. Outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for adult patients with hepatitis-associated aplastic anemia. *International Journal of Hematology* 109:711-717, 2019
- 20) Hayakawa J, Miyamura D, Kimura SI, Gomyo A, Tamaki M, Akahoshi Y, Harada N, Ugai T, Kusuda M, Kameda K, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Nakasone H, Kako S, Kanda Y. Negative impact of chronic graft-versus-host disease and glucocorticoid on physical function recovery after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 54:994-1003, 2019
- 21) Yokoyama H, Kanda J, Kato S, Kondo E, Maeda Y, Saji H, Takahashi S, Onizuka M, Onishi Y, Ozawa Y, Kanamori H, Ishikawa J, Ohno Y, Ichinohe T, Takanashi M, Kato K, Atsuta Y, Kanda Y. Effects of HLA mismatch on cytomegalovirus reactivation in cord blood transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 54:1004-1012, 2019
- 22) Shimomura Y, Hara M, Tachibana T, Ohashi K, Sakura T, Fukuda K, Nakazawa H, Iwato Y, Kanda Y, Ikeda T, Eto T, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Ishikawa T, Ishiyama K. Outcomes of second allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in patients with relapse of myelodysplastic syndrome. *British Journal of Haematology* 186:86-90, 2019
- 23) Fujimoto A, Hiramoto N, Yamasaki S, Inamoto Y, Uchida N, Maeda T, Mori T, Kanda Y, Kondo T, Shiratori S, Miyakoshi S, Ishiyama K, Ikegame K, Matsushashi Y, Tanaka J, Ichinohe T, Atsuta Y, Ogata M, Suzuki R. Risk factors and predictive scoring system for PTLD after HSCT. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 25:1441-1449, 2019
- 24) Kawamura K. Effect of antithymocyte globulin on HLA-mismatched unrelated transplantation. *International Journal of Hematology*. 110 :22-29, 2019
- 25) Umino K, Fujiwara S, Ikeda T, Kawaguchi S, Toda Y, Ito S, Ochi S, Nagayama T, Mashima K, Minakata D, Nakano H, Yamasaki R, Morita K, Kawasaki Y, Yamamoto C, Ashizawa M, Hatano K, Sato K, Oh I, Ohmine K, Muroi K, Kanda Y. Impact of the soluble interleukin-2 receptor level in the relapsed or refractory phase on the clinical outcome of patients with diffuse large B-cell lymphoma. *Leukemia and Lymphoma* 60:1926-1933, 2019
- 26) Fujiwara S, Kanda J, Tatara R, Ogawa H, Fukuda T, Okumura H, Ohashi K, Iwato K, Ueda Y, Ishiyama K, Eto T, Matsuoka K, Nakamae H, Onizuka M, Atsuta Y, Kanda Y. Clinical significance of low-dose total body irradiation

- in HLA-mismatched reduced-intensity stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 54:1327-1336, 2019
- 27) Murata M, Takenaka K, Uchida N, Ozawa Y, Ohashi K, Kim S, Ikegame K, Kanda Y, Kobayashi H, Ishikawa J, Ago H, Hirokawa M, Fukuda T, Atsuta Y, Kondo T. Comparison of outcomes of allogeneic transplantation for primary myelofibrosis among hematopoietic stem cell source groups. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 25:1536-1543, 2019
- 28) Fujiwara S, Ikeda T, Morita K, Shinzato T, Ishikawa N, Nakamura N, Yagisawa T, Kanda Y. Multiple myeloma derived from a kidney transplant donor who also developed myeloma after kidney donation. *American Journal of Transplantation* 19:1274-2377, 2019
- 29) Minakata D, Fujiwara S, Hayakawa J, Nakasone H, Ikeda T, Kawaguchi S, Toda Y, Ito S, Ochi S, Nagayama T, Mashima K, Umino K, Nakano H, Yamasaki R, Morita K, Kawasaki Y, Sugimoto M, Ishihara Y, Yamamoto C, Ashizawa M, Hatano K, Sato K, Oh I, Ohmine K, Muroi K, Ohmori T, Kanda Y. Comparison of danaparoid sodium and synthetic protease inhibitors for the treatment of disseminated intravascular coagulation associated with hematological malignancies: A retrospective analysis. *Acta Haematologica* 28:1-10, 2019
- 30) Kawasaki Y, Sato K, Nakano H, Hayakawa H, Izawa J, Takayama N, Mashima K, Oh I, Minakata D, Yamasaki R, Morita K, Ashizawa M, Yamamoto C, Hatano K, Fujiwara S, Omine K, Muroi K, Ito R, Ito M, Ohmori T, Kanda Y. Alloreactive T-cells display a distinct chemokine profile in response to conditioning in xenogeneic GVHD models. *Transplantation* 103:1834-1843, 2019
- 31) Kurosawa S, Yamaguchi T, Oshima K, Yanagisawa A, Fukuda T, Kanamori H, Mori T, Takahashi S, Kondo T, Kohno A, Miyamura K, Umemoto Y, Teshima T, Taniguchi S, Yamashita T, Inamoto Y, Kanda Y, Okamoto S, Atsuta Y. Resolved versus active chronic graft-versus-host disease: Impact on post-transplant quality of life. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 25:1851-1858, 2019
- 32) McCune JS, Quinones CM, Ritchie J, Carpenter PA, Maarsveen Ev, Yeh RF, Anasetti C, Boelens JJ, Hamerschlak N, Hassan M, Kang HJ, Kanda Y, Paci A, Perales M, Shaw PJ, Seewaldt VL, Savani BN, Hsieh A, Poon B, Mohty M, Pulsipher MA, Pasquini M, Dupuis LL. Harmonization of busulfan plasma exposure unit (BPEU): A community-initiated consensus statement. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 25:1890-1897, 2019
- 33) Umino K, Fujiwara S, Ikeda T, Kawaguchi S, Toda Y, Ito S, Ochi S, Nagayama T, Mashima K, Minakata D, Nakano H, Yamasaki R, Morita K, Kawasaki Y, Yamamoto C, Ashizawa M, Hatano K, Sato K, Oh I, Ohmine K, Muroi K, Kanda Y. Predictive value of soluble interleukin-2 receptor level at diagnosis on the outcome for patients with classical Hodgkin lymphoma treated with ABVD with or without radiotherapy. *Annals of Hematology* 98:2121-2129, 2019
- 34) Mizuno S, Kawamura K, Hanamura I, Sunami K, Mori T, Nakamura F, Iida S, Nakazawa H, Makita M, Kako S, Sawa M, Ueda Y, Takahashi H, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Takamatsu H, Takami A. Efficacy and safety of autologous stem cell transplantation in patients aged 65 years with multiple myeloma in the era of novel agents. *Bone Marrow Transplantation* 54:1595-1604, 2019
- 35) Kimura F, Kanda J, Ishiyama K, Yabe T, Yoshifuji K, Fukuda T, Ozawa Y, Iwato K, Eto T, Mori T, Uchida N, Ota S, Sakura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda Y. ABO blood type incompatibility lost the unfavorable impact on outcome in unrelated bone marrow transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 54:1676-1685, 2019
- 36) Akahoshi Y, Nishiwaki S, Mizuta S, Ohashi K, Uchida N, Tanaka M, Fukuda T, Ozawa Y, Takahashi S, Onizuka M, Shiratori S, Nakamae H, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Kako S. Tyrosine kinase inhibitor prophylaxis after transplant for Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. *Cancer Science* 110:3255-3266, 2019
- 37) Sakaguchi M, Yamaguchi H, Kuboyama M, Najima Y, Usuki K, Ueki T, Oh I, Mori S, Kawata E, Uoshima N, Kobayashi Y, Kako S, Tajika K, Shono K, Kayamori K, Hagihara

- M, Kanda J, Uchiyama H, Kuroda J, Uchida N, Kubota Y, Kimura S, Kurosawa S, Date K, Nakajima N, Marumo A, Omori I, Fujiwara Y, Terada K, Yui S, Wakita S, Arai K, Kitano T, Kakihana K, Kanda Y, Ohashi K, Fukuda T, Inokuchi K. Significance of FLT3-tyrosine kinase domain mutation as a prognostic factor for acute myeloid leukemia. *International Journal of Hematology* 110:566-574, 2019
- 38) Yamamoto C, Nakashima H, Ikeda T, Kawaguchi S, Toda Y, Ito S, Mashima K, Nagayama T, Umino K, Minakata D, Nakano H, Morita K, Yamasaki R, Sugimoto M, Ishihara Y, Ashizawa M, Hatano K, Sato K, Oh I, Fujiwara S, Ueda M, Ohmine K, Muroi K, Kanda Y. Analysis of the cost-effectiveness of treatment strategies for CML with incorporation of treatment discontinuation. *Blood Advances* 3:3266-3277, 2019
- 39) Yanada M, Konuma T, Kuwatsuka Y, Kondo T, Takahashi S, Kawata T, Uchida N, Miyakoshi S, Tanaka M, Ozawa Y, Sawa M, Nakamae H, Aotsuka N, Kanda J, Takanashi M, Kanda Y, Atsuta Y, Yano S. Unit selection for umbilical cord blood transplantation for adults with acute myeloid leukemia in complete remission: a Japanese experience. *Bone Marrow Transplantation* 54:1789-1798, 2019
- 40) Tachibana T, Kanda J, Ishizaki T, Najima Y, Tanaka M, Doki N, Fujiwara S, Kimura SI, Onizuka M, Takahashi S, Saito T, Mori T, Fujisawa S, Sakaida E, Matsumoto K, Aotsuka N, Gotoh M, Watanabe R, Shono K, Usuki K, Tsukada N, Kanamori H, Kanda Y, Okamoto S. Prognostic index for patients with relapsed or refractory acute myeloid leukemia who underwent hematopoietic cell transplantation: a KSGCT multicenter analysis. *Leukemia* 33:2610-2618, 2019
- 41) Akahoshi Y, Nakasone H, Kawamura K, Kusuda M, Kawamura S, Takeshita J, Yoshino N, Misaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Tanihara A, Tamaki M, Kimura SI, Kako S, Kanda Y. Increased Mac 2-Binding Protein Glycan isomer (M2BPGi) in patients at risk of late non-relapse mortality after HSCT. *Blood Advances* 3:3287-3296, 2019
- 42) Arai Y, Kondo T, Fuse K, Shibasaki Y, Masuko M, Sugita J, Teshima T, Uchida N, Fukuda T, Kakihana K, Ozawa Y, Eto T, Tanaka M, Ikegame K, Mori T, Iwato K, Ichinohe T, Kanda Y, Atsuta Y. Using a machine learning algorithm to predict acute graft-versus-host disease following allogeneic transplantation. *Blood Advances* 3:3626-3634, 2019
- 43) Nakasone H, Kikuchi M, Akahoshi Y, Kawamura K, Sato M, Kawamura S, Yoshino N, Takeshita J, Yoshimura K, Misaki Y, Gomyo A, Tanihara A, Kusuda M, Tamaki M, Kimura SI, Kako S, Kanda Y. Increased CD83 expression of CD34-positive monocytes in donors during peripheral blood stem cell mobilization in humans. *Scientific Reports* 9:16499, 2019
- 44) Ikeda T, Mori K, Kawamura K, Mori T, Hagiwara S, Ueda Y, Kahata K, Uchida N, Tsukada N, Murakami S, Yamamoto M, Takahashi T, Ichinohe T, Onizuka M, Atsuta Y, Kanda Y, Okamoto S, Sunami K, Takamatsu H. Comparison between autologous and allogeneic stem cell transplantation as salvage therapy for multiple myeloma relapsing/progressing after autologous stem cell transplantation. *Hematological Oncology* 37:586-594, 2019
- 45) Shimizu H, Doki N, Kanamori H, Sakura T, Mori T, Machida Si, Takahashi S, Ohwada C, Fujisawa S, Yano S, Hagihara M, Kanda Y, Onoda M, Gotoh M, Kako S, Taguchi J, Usuki K, Kawai N, Aotsuka N, Okamoto S. Prognostic impact of cytogenetic abnormalities in adult patients with Philadelphia chromosome-negative ALL who underwent an allogeneic transplant. *Bone Marrow Transplantation* 54:2020-2026, 2019
- 46) Ashizawa M, Akahoshi Y, Nakano H, Kawamura S, Takeshita J, Yoshino N, Misaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Tamaki M, Kusuda M, Kameda K, Wada H, Kawamura K, Sato M, Terasako-Saito K, Tanihara A, Kimura SI, Nakasone H, Kako S, Akahane K, Wakatsuki M, Shirai K, Kanda Y. Updated clinical outcomes of hematopoietic stem cell transplantation using myeloablative total body irradiation with ovarian shielding to preserve fertility. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 25:2461-2467, 2019
- 47) Kawase T, Tanaka H, Kojima H, Uchida N, Ohashi K, Fukuda T, Ozawa Y, Ikegame K, Eto T, Mori T, Miyamoto T, Hidaka M, Shiratori S, Takanashi M, Atsuta Y, Ichinohe

- T, Kanda Y, Kanda J. Impact of high frequency HLA haplotypes on clinical cytomegalovirus reactivation in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 25:2482-2489, 2019
- 48) Takano K, Ogata M, Satou T, Miyazaki Y, Otsuka E, Saito N, Ueki T, Kako S, Fukuda T, Shirao K. :Correlations of cytokine levels in cerebrospinal fluid and peripheral blood with outcome of HHV-6B encephalitis after hematopoietic stem cell transplantation. *Transplant Infectious Disease*. 21:e13172, 2019
- 49) Nishiwaki S, Mizuta S, Ohashi K, Fukuda T, Uchida N, Tachibana T, Onizuka M, Ozawa Y, Onishi Y, Takahashi S, Eto T, Nakamae H, Tanaka J, Ichinohe T, Atsuta Y, Kako S. : Different impact of BCR-ABL transcripts on allogeneic hematopoietic cell transplantation from different graft sources for Ph+ALL with minimal residual disease. *American Journal of Hematology*. 94: E301-305, 2019
- 50) Harada K, Tachibana T, Ohashi K, Ozawa Y, Sawa M, Kondo T, Ishikawa J, Onizuka M, Imada K, Fujisaki T, Tanaka J, Fukuda T, Atsuta Y, Kako S. :The effect of melphalan dose and total body irradiation as reduced-intensity conditioning for acute lymphoblastic leukemia patients undergoing allogeneic stem cell transplantation. *Leukemia & Lymphoma*. 60:3521-3528, 2019
- 【学会発表：国内】**
- 1) 神田善伸：EZRを用いた医療統計解析の実際 第46回日本集中治療医学会学術集会、2019年3月1日、京都
- 2) 神田善伸：移植適応マントル細胞リンパ腫の治療戦略、第41回日本造血細胞移植学会総会ランチョンセミナー、2019年3月8日、大阪
- 3) 賀古真一、神田善伸、鬼塚真仁、青墳信之、臼杵憲祐、立花崇孝、小林武、加藤淳、矢野真吾、清水啓明、鐘野勝洋、田中正嗣、塚本祥吉、森毅彦、山崎悦子、岡本真一郎：フルダラビン、減量シクロフォスファミド、低用量サイモグロブリンを用いた再生不良性貧血に対する同種移植、第41回日本造血細胞移植学会総会、2019年3月9日、大阪
- 4) 河村浩二、諫田淳也、大橋一輝、福田隆浩、岩戸康治、衛藤徹也、藤原慎一郎、森毅彦、一戸辰夫、熱田由子、神田善伸：非血縁者間同種骨髄移植におけるHLA 2座以上不適合ドナー選択の妥当性およびATG使用の影響、第41回日本造血細胞移植学会総会、2019年3月9日、大阪
- 5) 赤星佑、西脇聡史、水田秀一、大橋一輝、内田直之、金森平和、福田隆浩、小澤幸泰、神田善伸、一戸辰夫、熱田由子、賀古真一：Ph陽性急性リンパ性白血病の同種移植後MRD陰性症例におけるTKI予防投与の有用性についての検討：JSHCT Adult ALL WG study、第41回日本造血細胞移植学会総会、2019年3月8日、大阪
- 6) 神田善伸：血液領域における真菌感染症の治療戦略や抗真菌薬の適正使用、第93回日本感染症学会総会、2019年4月5日、名古屋
- 7) 神田善伸：ベーシックレクチャー、第67回化学療法学会総会、2019年5月10日、東京
- 8) 神田善伸：急性リンパ性白血病に対する新規治療法、第60回日本内科学会生涯教育講演会、2019年7月14日、東京
- 9) 神田善伸：造血幹細胞移植、第1回日本血液学会関東甲信越地方会若手教育セミナー、2019年8月24日、東京
- 10) 木村俊一、神田善伸、飯野昌樹、福田隆浩、堺田恵美子、小宅達郎、山口博樹、藤原慎一郎、鈴宮淳司、岡本晃直、藤田浩之、高松泰、田村和夫：持続する発熱性好中球減少症に対する従来型の経験的抗真菌治療とD-indexに基づく早期抗真菌治療の無作為割付比較試験（CEDMIC試験）、第4回日本がんサポーターブケア学会学術集会、2019年9月7日、青森
- 11) 神田善伸：CAR-T vs BiTE vs. ADC (with/without SCT)、第11回日本血液疾患免疫療法学会学術集会シンポジウム、2019年10月5日、東京
- 12) 木村俊一、神田善伸、飯野昌樹、福田隆浩、堺田恵美子、小宅達郎、山口博樹、藤原慎一郎、鈴宮淳司、岡本晃直、藤田浩之、高松泰、佐分利能生、松村到、山之内純、白鳥聡一、後藤守孝、中村信元、田村和夫：D-indexに基づく早期抗真菌治療におけるミカファンギンの有効性;CEDMIC試験サブグループ解析、第81回日本血液学会学術集会、2019年10月11日、東京
- 13) 赤星佑、仲宗根秀樹、河村浩二、佐藤美樹、川村俊人、竹下絢子、吉野望、三崎柚希子、吉村一樹、後明晃由美、谷原亜紀、玉置雅治、楠田待子、和田英則、木村俊一、賀古真一、神田善伸：ダサチニブ時代のPh+ALLにおけるデジタルPCRを用いたT315I変異検出、第81回日本血液学会学術集会、2019年10月11日、東京

- 14) 賀古真一、早川文彦、今井陽俊、田中淳司、水田秀一、西脇聡史、金森平和、大橋一輝、内田直之、池亀和博、福田隆浩、一戸辰夫、太田秀一、田中芳紀、村山徹、倉橋慎吾、佐倉徹、薄井紀子、大竹茂樹、清井仁、松村到、宮崎泰司、熱田由子：高強度化学療法時代におけるフィラデルフィア染色体陰性急性リンパ性白血病第1寛解期の至適治療、第81回日本血液学会学術集会、2019年10月12日、東京
- 15) 玉置雅治、仲宗根秀樹、川村俊人、竹下絢子、吉野望、三崎柚季子、吉村一樹、後明晃由美、谷原亜紀、楠田待子、赤星佑、河村浩二、木村俊一、賀古真一、神田善伸：同種移植後28日間の血圧が生存に与える影響に関する検討、第81回日本血液学会学術集会、2019年10月
- 16) Kawamura K, Nakasone H, Akahoshi Y, Kawamura S, Takeshita J, Yoshino N, Misaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Tamaki M, Kusuda M, Kameda K, Wada H, Sato M, Terasako-Saito K, Tanihara A, Kimura SI, Kako S, Kanda Y: A prospective single-center study of live attenuated varicella vaccine after allogeneic transplant. 第81回日本血液学会学術集会2019年、10月12日、東京
- 17) Kawamura K, Nakasone H, Wada H, Akahoshi Y, Kawamura S, Takeshita J, Yoshino N, Misaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Tamaki M, Kusuda M, Kameda K, Sato M, Terasako-Saito K, Tanihara A, Kimura SI, Kako S, Kanda Y: Evaluation of the immunity to measles, mumps and rubella in adult allogeneic transplant patients. 第81回日本血液学会学術集会、2019年10月12日、東京
- 【学会発表：海外】**
- 1) Akahoshi Y, Nishiwaki S, Mizuta S, Ohashi K, Uchida N, Kanamori H, Fukuda T, Ozawa Y, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Kako S: Prophylactic use of tyrosine kinase inhibitors in patients with negative results for minimal residual disease after allogeneic stem cell transplantation for Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia: On behalf of the Adult Acute Lymphoblastic Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation: TCT Transplantation & Cellular Therapy Meetings of ASBMT and CIBMTR 2019 Feb 20-24, Houston, U.S.A
- 2) Kawamura K, Nakasone H, Akahoshi Y, Kawamura S, Takeshita J, Yoshino N, Misaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Tamaki M, Kusuda M, Kameda K, Wada H, Sato M, Terasako-Saito K, Tanihara A, Kimura SI, Kako S, Kanda Y: Safety and efficacy of live attenuated varicella vaccine for preventing varicella zoster virus disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: A prospective single-center study. The 24th EHA Congress, June 13-16, 2019, Amsterdam, Nezerlands
- 3) Kawamura K, Nakasone H, Wada H, Akahoshi Y, Kawamura S, Takeshita J, Yoshino N, Misaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Tamaki M, Kusuda M, Kameda K, Sato M, Terasako-Saito K, Tanihara A, Kimura SI, Kako S, Kanda Y: Evaluation of the immunity to measles, mumps and rubella in adult patients after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. The 24th EHA Congress, June 13-16, 2019, Amsterdam, Nezerlands
- 4) Kako S, Hayakawa F, Imai K, Tanaka J, Mizuta S, Nishiwaki S, Kanamori H, Doki N, Uchida N, Ikegame K, Fukuda T, Ichinohe T, Ota S, Tanaka Y, Murayama T, Kurahashi S, Sakura T, Usui N, Ohtake S, Kiyoi H, Matsumura I, Miyazaki Y, Atsuta Y.: The Optimal Treatment Strategy for Adult Patients with Philadelphia Chromosome-negative Acute Lymphoblastic Leukemia in First Remission in the Era of High-intensity Chemotherapy. 61th ASH Annual Meeting, 2019, Dec. 7-10, 2019, Orland, Florida, U.S.A.
- 5) Kawamura K, Kanda J, Seo S, Kimura F, Hirayama M, Uchida N, Doki N, Fukuda T, Ozawa Y, Katayama Y, Takanashi M, Atsuta Y, Kanda Y: The difference in the donor selection priority in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation according to patient age. 61st ASH Annual Meeting & Exposition, December 7-10, 2019, Orland, Florida, U.S.A.
- 6) Akahoshi Y, Igarashi A, Fukuda T, Uchida N, Tanaka M, Ozawa Y, Kanda Y, Onizuka M, Ichinohe T, Tanaka J, Atsuta Y, Kako S: Impact of Graft-Versus-Host Disease and Graft-Versus-Leukemia Effect Based on Minimal Residual Disease in Philadelphia Chromosome-Positive Acute Lymphoblastic Leukemia: 61th American Society of hematology Annual Meeting and

Exposition 2019 December 7-10, Orland, U.S.A

【著書・総説】 / 【その他】

学会招聘講演、著書・総説等は紙面の関係で省略いたします。(医学部年報に掲載予定です。)

■ リウマチ膠原病科

2019. 11-2020. 4

【原著論文】

- 1) 長尾菜摘、矢部寛樹、原口裕美子、渡邊萌理、小橋川剛、八子徹、南家由紀、小竹茂：23価肺炎球菌多糖体ワクチン（PPSV23）接種後に発症した関節リウマチ. 自治医科大学紀要 42:35-40, 2019.

【著書・総説】

- 1) Nanke Y, Kotake S: Adalimumab for spondyloarthritis. The Pharmacological Guide to Adalimumab. Nova Science Publishers, Inc. New York, 2020 In press
- 2) 小竹茂：ベーチェット病 第4版「Evidence based medicineを活かす膠原病リウマチ診療」東京女子医科大学病院膠原病リウマチ痛風センター編 メディカルビュー社 2020年4月
- 3) 南家由紀：アミロイドーシス 第4版「Evidence based medicineを活かす膠原病リウマチ診療」東京女子医科大学病院膠原病リウマチ痛風センター編 メディカルビュー社 2020年4月
- 4) 南家由紀、小竹茂：破骨細胞・骨芽細胞におけるIL-17. 炎症性病態におけるIL23/IL-17とその阻害薬の基礎と臨床. リウマチ科 In press
- 5) 南家由紀、小竹茂：炎症性腸疾患に伴う脊椎関節炎. 日本臨床 In press

【研究会発表】

- 1) 南家由紀：講演 乾癬性関節炎の病態におけるIL-17. 基礎研究から考える全身性炎症性疾患としての乾癬、乾癬性関節炎研究会 2019年12月21日 仙台市

■ 小児科

【学会発表】

- 1) 牧田英士、黒田早恵、板橋佳恵、菅原大輔、市橋光：鶏卵と牛乳のFood protein-induced enterocolitis syndromeの寛解時期の比較. 第56回日本小児アレルギー学会学術大会、2019年11月2

-3日、千葉

- 2) 野中航仁、大石高稔、池田太郎、市橋光：小児の内ヘルニア診断における超音波検査の有用性, 第5回日本小児超音波研究会学術集会、徳島、2019年11月16日
- 3) 菅原大輔、桑田知之、高木健次郎：妊娠糖尿病母体児の合併症予測因子として妊娠後期のGA/HbA1c比の有用性. 第35回日本糖尿病・妊娠学会総会、東京、2019年11月22-23日
- 4) 蓮沼もも、板橋佳恵、平久保由香、市橋光、大楠清文：髄液PCR検査で起炎菌を確定できた新生児髄膜炎の1例. 第178回日本小児科学会埼玉地方会、さいたま、2019年12月1日
- 5) 林佳菜恵、松浦未紗、菅原大輔、平久保由香、市橋光、小佐野仁志、渡邊秀紀、小川あゆみ：第178回日本小児科学会埼玉地方会、さいたま、2019年12月1日
- 6) 野中航仁、池田太郎、市橋光：嘔吐を契機に発見された腹腔内異物の1例, 第8回日本小児診療多職種研究会、静岡、2020年2月1-2日
- 7) 山根大明、浦丸知子、板橋佳恵、野中航仁、平久保由香、市橋光：第178回日本小児科学会埼玉地方会、さいたま、2020年2月9日

【その他】

- 1) 菅原大輔：「低身長児の診察から成長ホルモン導入までの流れについて～診断から成長ホルモン製剤の選択を含めて～」, Child Nursing in Saitama. さいたま、2019年2月9日
- 2) 市橋光：院内感染対策－実践のポイント－. 令和元年度埼玉県医師会医療安全研修会、さいたま、2020年2月8日
- 3) 市橋光：体表エコーで診る小児疾患。日本超音波医学会「超音波講習会（体表）」, 東京、2020年2月23日

【著者 総説】

- 1) 森一博、市橋光：心臓超音波検査. 小児エコーの撮影法と正常像がぜんぶわかる！金芳堂、161-204, 2019
- 2) 市橋光：頭部超音波検査. 小児エコーの撮影法と正常像がぜんぶわかる！金芳堂、205-232, 2019

■ 放射線科

前回未掲載～2020年4月

【原著論文】

- 1) Saitoh JI, Shirai K, Mizukami T, Abe T, Ebara T, Ohno T, Minato K, Saito R, Yamada M, Nakano T: Hypofractionated carbon-ion radiotherapy for stage I peripheral nonsmall cell lung cancer (GUNMA0701): Prospective phase II study. *Cancer Med* 8 (15): 6644-6650, 2019
- 2) Matsui T, Oike T, Shirai K, Ohno T: Definitive Radiation Therapy for Merkel Cell Carcinoma Misdiagnosed as a Metastatic Tumor: A Case Report. *Cureus* 11 (8): e5483, 2019
- 3) Takayasu Y, Kubo N, Shino M, Nikkuni O, Ida S, Musha A, Takahashi K, Hirato J, Shirai K, Saitoh JI, Yokoo S, Chikamatsu K, Ohno T, Nakano T; Working Group on Head and Neck Tumors: Carbon-ion radiotherapy combined with chemotherapy for head and neck mucosal melanoma: Prospective observational study. *Cancer Med* 11 (8): e5483, 2019
- 4) Shrestha S, Higuchi T, Shirai K, Tokue A, Shrestha S, Saitoh JI, Hirasawa H, Ohno T, Nakano T, Tsushima Y: Prognostic significance of semi-quantitative FDG-PET parameters in stage I non-small cell lung cancer treated with carbon-ion radiotherapy. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*. 2019 In press.
- 5) Manabe O, Oyama-Manabe N, Nagai T, Furuya S, Anzai T: Detailed visualization of the right and left ventricular, left atrial, and epicardial involvement of cardiac sarcoidosis with novel semiconductor PET/CT. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* 2019 Nov 12 doi:10.1007/s00259-019-04577-0[Epub ahead of print]
- 6) Furuya S, Naya M, Manabe O, Hirata K, Ohira H, Aikawa T, Koyanagawa K, Magota K, Tsujino I, Anzai T, Kuge Y, Oyama-Manabe N, Kudo K, Shiga T, Tamaki N: F-FMISO PET/CT detects hypoxic lesions of cardiac and extra-cardiac involvement in patients with sarcoidosis. *J Nucl Cardiol*. 2019 doi: 10.1007/s12350-019-01976-6[Epub ahead of print]
- 7) Manabe O, Oyama-Manabe N, Tamaki N: Positron emission tomography/MRI for cardiac diseases assessment. *Br J Radiol*. 2020:20190836. doi: 10.1259/bjr.20190836. [Epub ahead of print]
- 8) Manabe O, Koyanagawa K, Hirata K, Oyama-Manabe N, Ohira H, Aikawa T, Furuya S, Naya M, Tsujino I, Tomiyama Y, Otaki Y, Anzai T, Tamaki N: Prognostic Value of 18F-FDG PET Using Texture Analysis in Cardiac Sarcoidosis. *JACC Cardiovasc Imaging*. 2020 . pii: S1936-878X (19) 31157-X. doi: 10.1016/j.jcmg.2019.11.021. [Epub ahead of print]
- 9) 湊恭輔, 角田澄子, 千葉英美子, 丹野啓介, 大河内知久, 濱本耕平, 田中修: 造血器腫瘍に合併した骨髄壊死のMRI所見の検討. *埼玉県医学会雑誌*, 54 (1): 458-463, 2019
- 10) 角田澄子, 湊恭輔, 千葉英美子, 丹野啓介, 大河内知久, 濱本耕平, 田中修: 両側肺に多発性の薄壁空洞性転移をきたした食道癌の一例. *埼玉県医学会雑誌*, 54 (1): 449-451, 2019

【学会発表】

- 1) 白井克幸, 赤羽佳子, 若月優, 小川一成, 高橋聡, 湊恭輔, 濱本耕平, 齊藤公俊, 大島将, 小西鼓, 中村勇貴, 宮川友明: 当院における前立腺癌術後およびPSA再発に対する放射線治療成績. 第57回日本癌治療学会学術集会, 2019年10月24-26日、福岡
- 2) 六本木和也, 田辺利彰, 横山和宏, 山科元滋, 伊古田雅史, 吉野義一: 手術室におけるPhilips Azurionの導入と使用経験. 第53回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 2019年11月21-23日、福岡
- 3) 高橋侑大, 和合貴美, 板野正信, 山崎健史, 山田恵里佳, 橋英伸: 解析ソフトウェアの違いがピケットフェンス試験結果に与える影響. 第32回日本放射線腫瘍学会学術大会, 2019年11月21-23日、愛知
- 4) 岡崎哲照, 高橋侑大, 山田恵里佳, 鈴木真人, 松崎仁, 赤羽佳子, 白井克幸: 腹部領域の four dimensional cone beam computed tomography にガントリ回転速度と管電流時間積が与える影響. 第32回日本放射線腫瘍学会学術大会, 2019年11月21-23日、愛知
- 5) 真鍋徳子: 2心臓領域での画像診断 ～最先端おさえおくべきポイント～. 第30回日本心臓血管画像動態学会, 2020年1月24日、仙台
- 6) 真鍋徳子: Value-based medicine の時代における虚血評価. 第31回日本心臓血管画像動態学会, 2020年1月25日、仙台
- 7) 川上裕貴: Basic of MRCP. 第46回Saitama MRI

Conference、2020年2月21日、埼玉

【その他】

- 1) 千葉英美子、池田欣正：左中大脳動脈瘤ステント併用コイル塞栓術後（再疎通疑い）. 画論 2019,2019年12月15日、東京
- 2) 濱本耕平、池田欣正：両側内頸動脈瘤.画論2019, 2019年12月15日、東京

【著者 総説】

- 1) 真鍋徳子、常田慧徳、真鍋治：令和時代の循環器イメージングにおける新しい潮流. 映像情報 Medical 52 (3), 17-21,2020.

■ 救急科

2019年未発表分～2020年4月20日

【原著論文】

- 1) Kashiura M, Yada N, Yamakawa K : Interventional radiology versus operative management for splenic injuries : a study protocol for a systematic review and meta-analysis. BMJ Open 9 : e028172, 2019
- 2) Kashiura M, Amagasa S, Tamura H, Sanayama H, Yamashina M, Ikota M, Sakiyama Y, Yoshino Y, Moriya T : Reperfusion therapy of acute ischemic stroke in an all-in-one resuscitation room called a hybrid emergency room. Oxf Med Case Reports 2019 : omz042, 2019
- 3) Matsumoto S, Hayashida K, Akashi T, Jung K, Sekine K, Funabiki T, Moriya T : Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta (REBOA) for Severe. Torso Trauma in Japan : A Descriptive Study. World J Surg 43 (7) : 1700-1707, 2019
- 4) Kashiura M, Fukushima F, Tamura H, Moriya T : T-wave alternans : a harbinger of polymorphic ventricular tachycardia. Oxf Med Case Reports 2019 : omz095, 2019
- 5) Kondo Y, Hifumi T, Shimazaki J, Oda Y, Shiraishi SI, Hayashida K, Fukuda T, Wakasugi M, Kanda J, Moriya T, Yagi M, Kawahara T, Tonouchi M, Yokobori S, Yokota H, Miyake Y, Shimizu K : Comparison between the Bouchama and Japanese Association for Acute Medicine Heatstroke Criteria with Regard to the Diagnosis and Prediction of Mortality of Heatstroke Patients : A Multicenter Observational Study.

Int J Environ Res Public Health 16 (18). Pii : E3433, 2019

- 6) Matsumoto S, Funabiki T, Hayashida K, Yamazaki M, Ebihara T, Moriya T : Effectiveness and Usage Trends of Hemorrhage Control Interventions in Patients with Pelvic Fracture in Shock. World J Surg. 2020
- 7) 守谷俊、中村雅人、福島史人、海老原貴之、坪井謙：Sudden cardiac arrestを意識した一般市民ランナーに対する救護体制の確立 —第4回さいたま国際マラソンを終えて—。大宮医師会報 756 : 168-172, 2019
- 8) 下山哲、守谷俊：病院全職員を対象とした心肺蘇生講習会は開催可能か。大宮医師会報 764 : 631-633, 2019
- 9) 佐藤杏美、田村洋行、松井崇頼、平良悠、笹井史也、喜久山和貴、天笠俊介、柏浦正広、海老原貴之、守谷俊：腹部大動脈瘤による総胆管圧排から肝膿瘍をきたした1例。埼玉県医学会雑誌 54 : 224-227, 2019
- 10) 讚井將満、中川温美、守谷俊：集中治療と救急医療の連携。救急医学 43 : 232-237, 2019
- 11) 守谷俊：脳CT、脳MRI、ICU治療指針 I。救急・集中治療 31 : 347-351, 2019

【学会発表】

- 1) 茶葉里美、中原梓、曾根原里沙、福島史人、柏浦正広、海老原貴之、守谷俊：通常診療から多数傷病者対応への切り替えに対するキーワードを用いた基準の作成。第24回日本災害医学会総会・学術集会、2019年3月18日-20日、米子
- 2) 鈴木涼平、曾根原里沙、茶葉里美、中原梓、福島史人、柏浦正広、海老原貴之、守谷俊：火災における多数傷病者のトリアージと初期対応の問題点。第24回日本災害医学会総会・学術集会、2019年3月18日-20日、米子
- 3) 中原梓、曾根原里沙、茶葉里美、福島史人、柏浦正広、海老原貴之、守谷俊：ビル火災での初動対応の問題点を踏まえたマニュアル作成とシミュレーションの実施。第24回日本災害医学会総会・学術集会、2019年3月18日-20日、米子
- 4) 守谷俊：ドクターカーからハイブリッドERへつながる救急医療の進歩。第11回首都圏医療連携を研究する会、2019年5月、川口
- 5) 問田千晶、六車崇、竹内一郎、森村尚登、守谷俊：日本の小児救急に関する臨床研究論文の動向（パネルディスカッション：小児傷病者の病院前救護と診療における課題と展望）。第22回日本臨

- 床救急医学会総会・学術集会、2019年5月30日-6月1日、和歌山
- 6) 新田雅彦、賀来典之、林卓郎、安達信吾、塚原敏平、松浦治人、光錢大裕、六車崇、守谷俊：小児病院前救護トレーニングコース (PPMEC) の今後 (パネルディスカッション：小児傷病者の病院前救護と診療における課題と展望)。第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2019年5月30日-6月1日、和歌山
 - 7) 小野翔一郎、鈴木涼平、谷口慎一、遠藤成晃、中村雅人、福島史人、海老原貴之、守谷俊：Damage control surgeryおよびdamage control orthopedicsを適切に行い救命士機能温存しえた1例。第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2019年5月30日-6月1日、和歌山
 - 8) 福島史人、鈴木涼平、天笠俊介、田村洋行、柏浦正広、小山洋史、下山哲、海老原貴之、守谷俊：三次救急医療の事象発生から来院までの時間短縮に関するICTを用いた解析とシミュレーションに関する研究。第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2019年5月30日-6月1日、和歌山
 - 9) 守谷俊：埼玉県における救急電話相談の現状とAIを活用した救急度判定の取り組み。第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2019年5月30日-6月1日、和歌山
 - 10) 海老原貴之、鈴木涼平、谷口慎一、中村雅人、横田美帆、遠藤成晃、小野翔一郎、守谷俊：左後腹膜アプローチによる前方固定術中に生じた右分節動脈仮性動脈瘤破裂に対しFloSeal無効でガーゼパッキングとTAEで止血した1例。第33回日本外傷学会総会・学術集会、2019年6月6日-7日、八戸
 - 11) 小林未央子、柏浦正広、三上学、濱邊祐一：症例から学ぶ 入院中に発症した網膜中心動脈閉塞症に対して高気圧酸素療法を施行した一例。第17回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会、2019年6月15日、東京
 - 12) 小林未央子、柏浦正広、三上学、濱邊祐一：当院における重症軟部組織感染症に対する高気圧酸素療法の検討。第54回日本高気圧環境・潜水医学会、2019年6月16日、東京
 - 13) 小野翔一郎、海老原貴之：ローラー巻き込み損傷によって生じた尺骨分節骨折を伴う Floating elbow の1例。第45回日本骨折治療学会、2019年6月28日-29日、福岡
 - 14) 波多野裕理、田村洋行、柏浦正広、守谷俊：腹部大動脈瘤に起因した胆道閉塞に伴うDICに対してアコアランを使用した1例。第2回さいたま中央・南部救急医療セミナー、2019年7月12日、さいたま
 - 15) 増山智之、守谷俊、岩崎夢大、塩塚潤二、讚井將満：Septic shockに対するビタミンC、ビタミンB1、ハイドロコルチゾン併用療法の有用性。日本集中治療医学会第3回関東甲信越支部学術集会、2019年7月27日、甲府
 - 16) 守谷俊、柏浦正広、天笠俊介：産官学連携による「埼玉県AI救急相談」設立までの背景と発展の可能性 (パネルディスカッション：医工・産学連携の取り組み)。第34回日本救急医療学会総会・学術集会、2019年9月27日-28日、大阪
 - 17) Takayuki E, Miho Y, Takashi M：Hemostasis using gauze packing and TAE following unsuccessful FloSeal hemostasis during anterior fixation in patient with contralateral ruptured segmental arterial pseudoaneurysm - a case report -. 15th Association Franco - Japonaise d'orthopédie, 2019.9, Lyon, France
 - 18) Miho Y, Takayuki E, Tsuyoshi C, Shinichi T, Ryohei S, Takashi M：Open scaphoid fracture with pisiform fracture-dislocation conducted initial surgery in hybrid ER - a case report-. 15th Association Franco - Japonaise d'orthopédie, 2019.9, Lyon, France,
 - 19) 守谷俊、卯津羅雅彦、黒田泰弘：脳死下臓器提供におけるドナー管理を安全に集中治療医が行うためには (パネルディスカッション：「臓器提供ハンドバック～終末期から臓器の提供まで」発刊にあたり)。第47回日本救急医学会総会・学術集会、2019年10月2日-4日、東京
 - 20) 守谷俊、柏浦正広、天笠俊介：全国初のチャットボットによる「埼玉県AI救急相談」における今後の展開 (パネルディスカッション：AIを用いた救急医療の展開。第47回日本救急医学会総会・学術集会、2019年10月2日-4日、東京
 - 21) 柏浦正広、守谷俊：論文執筆に重要な「時間」と「指導者」の見つけ方 (日本救急医学会雑誌：その役割と執筆から採用までの問題点—日本救急医学会雑誌にどんどん投稿しましょう)。第47回日本救急医学会総会・学術集会、2019年10月2日-4日、東京
 - 22) 天笠俊介、守谷俊、辻聡、植松悟子、木下浩作：救急医療においてabusive head traumaに対する知識・情報は重要である。第47回日本救急医学会総会・学術集会、2019年10月2日-4日、東京
 - 23) 柏浦正広、田村洋行、伊古田雅史、山科元滋、吉野義一、守谷俊：Hybrid ERで行うall-in-oneの急

- 性期虚血性脳卒中治療. 第47回日本救急医学会総会・学術集会、2019年10月2日-4日、東京
- 24) 長岡毅、坪井謙、松井崇頼、村田信也、山岸利暢、石田岳史、守谷俊：急性期脳梗塞の初期診療時間短縮に向けた当院での取り組みについて. 第47回日本救急医学会総会・学術集会、2019年10月2日-4日、東京
- 25) 横田美帆、細川透、桑名司、松岡俊、伊原慎吾、山口順子、守谷俊、木下浩作：市中感染型MRSAによる重症肺化膿症の1例. 第47回日本救急医学会総会・学術集会、2019年10月2日-4日、東京
- 26) 田村洋行、柏浦正広、松井崇頼、福島史人、中村雅人、平良悠、笹井史也、天笠俊介、下山哲、海老原貴之、守谷俊：塩化ナトリウム大量摂取による高度胃粘膜障害の1例. 第47回日本救急医学会総会・学術集会、2019年10月2日-4日、東京
- 27) 柏浦正広、田村洋行、伊古田雅史、山科元滋、吉野義一、守谷俊：Hybrid ERで変わる救急医療 Hybrid ERで行うall-in-oneの急性期虚血性脳卒中治療. 第47回日本救急医学会、2019年10月2日-4日、東京
- 28) 守谷俊：全国初のチャットボットシステムによる「埼玉県AI救急相談」の紹介と今後の可能性（シンポジウム3：救急需要対策における取り組みⅡ）. 第28回全国救急隊員シンポジウム、2020年1月30日-31日、仙台
- 29) Mioko K, Masahiro K, Kazuhiro S, Yuichi H : Association between hyperoxia and 1-month mortality in OHCA patients with ECPR. 49th Critical Care Congress, Feb 17, 2020, Florida, United States

【その他】

- 1) 守谷俊：埼玉県AI救急相談設立の経緯と今後の展開. 富山救急医療学会第37回学術集会、2019年9月、富山
- 2) 守谷俊：埼玉県AI救急相談が始まりました. 日本製薬医学教育会、2019年9月、東京
- 3) 福島史人：海外調査「欧州諸国における救急医療及び救急搬送体制に関する調査」, 国際交通安全学会特別研究員、2019年12月9日-22日、フランス・イギリス・スイス・ドイツ
- 4) 守谷俊：ランチョンセミナー Hybrid ERにおける救急医療のparadigm shift. 第70回日本救急医学会関東地方会、2020年1月18日、前橋
- 5) 守谷俊：ランチョンセミナー 埼玉県AI救急相談を始めました. 第72回済生会学会・済生会総

会、2020年2月8日、新潟

- 6) 守谷俊：全国初！AIを用いた救急電話相談（埼玉県AI救急相談）の現状と未来展望. 第5回医療IT EXPO大阪、2020年2月27日、大阪

【著者 総説】

- 1) 守谷俊：身近な人が脳卒中、心筋梗塞で倒れたら. 週刊朝日MOOK 突然死を防ぐ脳と心臓のいい病院2019, 朝日新聞出版, 2018, pp30-33
- 2) 守谷俊：身近な人が脳卒中、心筋梗塞で倒れたら. 朝日脳活マガジン ハレやか, 朝日新聞出版, 2019, pp14-15
- 3) Moriya T, Kashiura M. Body Temperature Care for Comatose Patients with Post-cardiac Arrest Syndrome. In: Kinoshita K (ed) . Neurocritical Care. Singapore: Springer, 2019, 23-29.
- 4) 守谷俊：口腔顎顔面外傷. 今日の治療指針 私はこう治療している2019（福井次矢、高木誠、小室一成 編）医学書院, 2019, pp52-53
- 5) 守谷俊：ビタミンB1欠乏症（脚気心を含む）. 今日の治療指針 私はこうしている2020（福井次矢、高木誠、小室一成 編）, 医学書院, 2020, pp29-31
- 6) 柏浦正広：【見逃さない!救急で出合う感染症】救急部門で出合う感染症（症候別）髄膜炎 初期治療から診断に向けた動き. Emer Log 32 (6), メディカ出版, 2019, pp871-874

総合医学2

■ 一般・消化器外科

【原著論文】

- 1) Tsujinaka S, Tan KY, Miyakura Y, Fukano R, Oshima M, Konishi F, Rikiyama T: Current Management of Intestinal Stomas and Their Complications. J Anus Rectum Colon 4, 25-33, 2020.

【学会発表】

- 1) 力山敏樹：女性外科医の育成とワークシェア・ワークライフバランス. 第56回日本糖尿病学会近畿地方会, 2019年11月9日, 大阪市, ワークショップ講演・パネリスト.
- 2) 前本 遼、宮倉安幸、水澤由樹、高橋 洵、高山法也、福田臨太郎、辻仲眞康、田巻佐和子、石川英樹、力山敏樹：当院における下部直腸癌手術における縫合不全症例の検討. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019年11月14-16日, 高知市, 口演.
- 3) 相澤栄俊、野田弘志、遠藤裕平、渡部文昭、笠原尚哉、加藤高晴、力山敏樹：RO切除を追求した当科の肝門部領域胆管癌に対する治療戦略と手術成績. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019年11月14-16日, 高知市, 口演.
- 4) 亀山優真、野田弘志、相澤栄俊、遠藤裕平、渡部文昭、笠原尚哉、加藤高晴、力山敏樹：術前診断が困難であった臍過誤腫の1例. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019年11月14-16日, 高知市, 口演.
- 5) 大木 薫、石岡大輔：術前に白血球増加を認めたG-CSF産生食道癌肉腫と考えられた1例. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019年11月14-16日, 高知市, 口演.
- 6) 福岡謙徳、加藤高晴、野田弘志、笠原尚哉、渡部文昭、遠藤裕平、相澤栄俊、清崎浩一、宮倉安幸、辻仲眞康、齊藤正昭、蓬原一茂、武藤雄太、石岡大輔、力山敏樹：肝原発大細胞神経内分泌癌の1切除術例. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019年11月14-16日, 高知市, 口演.
- 7) 渡部文昭、鈴木浩一、相澤栄俊、遠藤裕平、笠原尚哉、加藤高晴、野田弘志、力山敏樹：臍癌患者における血中KRASモニタリングの有用性. 第17回日本消化器外科学会大会 (JDDW2019), 2019年11月21-24日, 神戸市, ポスター.
- 8) 野田弘志、柿澤奈緒、力山敏樹：腹部動脈石灰化評価による高齢者臍頭十二指腸切除ハイリスク症例の試み. 第17回日本消化器外科学会大会 (JDDW2019), 2019年11月21-24日, 神戸市, パネルディスカッション.

- 9) 植村政和、長尾能雅、遠山信幸、兼児敏浩、南須原康行、浦松雅史、荒井有美、田辺公一、梅村朋、深見達弥：病院組織が抱えるリスクは量的に可視化可能か. 第14回医療の質・安全学会学術集会, 2019年11月29日, 京都市, 口演.
- 10) 亀森康子、大塚潔、大庭明子、遠山信幸：歯科衛生士のインシデント報告に基づいた取り組みと改善. 第14回医療の質・安全学会学術集会, 2019年11月29日, 京都市, 口演.
- 11) 大庭明子、草浦理恵、岩本典正、高橋将、梅本富士、藤田英雄、百瀬直樹、亀森康子、遠山信幸：当センターにおけるMACT (Monitor Alarm Control Team) の取り組み. 第14回医療の質・安全学会学術集会, 2019年11月29日, 京都市, 口演.
- 12) 新津京介、鈴木栄、大塚潔、大庭明子、長谷部忠司、遠山信幸：薬剤師による経口抗がん薬の血液検査チェックシステムの構築. 第14回医療の質・安全学会学術集会, 2019年11月29日, 京都市, 口演.
- 13) 市田晃佑、野田弘志、力山敏樹：腹腔鏡手術における抗菌縫合糸のSSI低減効果の検討. 第32回日本外科感染症学会総会, 2019年11月29-30日, 岐阜市, ワークショップ.
- 14) 竹内 彬、高山法也、水澤由樹、前本 遼、福田臨太郎、辻仲眞康、宮倉安幸、力山敏樹：腹部外傷後に遅発性に横行結腸穿孔をきたした症例について. 第37回埼玉県外科集談会, 2019年11月30日, さいたま市, 口演.
- 15) 柿澤奈緒：VEGF抗体のバイオマーカーについて. 第5回オープンカンファランス, 2019年12月3日, さいたま市, 口演.
- 16) 辻仲眞康、宮倉安幸、福田臨太郎、前本 遼、高山法也、高橋 洵、田巻佐和子、石川英樹、力山敏樹：当院における腹腔鏡下結腸右半切除の手術手技と手術成績の検討. 第32回日本内視鏡外科学会, 2019年12月5-7日, 横浜市, 口演.
- 17) 野田弘志、相澤栄俊、遠藤裕平、渡部文昭、加藤高晴、力山敏樹：インスリンノーマに対する腹腔鏡下手術の開腹移行例の検証. 第32回日本内視鏡外科学会, 2019年12月5-7日, 横浜市, 口演.
- 18) 前本 遼、辻仲眞康、水澤由樹、高橋 洵、高山法也、福田臨太郎、宮倉安幸、石川英樹、柿澤奈緒、力山敏樹：術式別にみたS状結腸憩室炎・結腸膀胱瘻の治療成績に関する検討. 第32回日本内視鏡外科学会, 2019年12月5-7日, 横浜市, 口演.
- 19) 高橋 洵、宮倉安幸、辻仲眞康、福田臨太郎、高山法也、前本 遼、石川英樹、田巻佐和子、力山敏樹：80歳以上の高齢者大腸癌に対する腹腔鏡手術症例の検討. 第32回日本内視鏡外科学会, 2019

- 年12月5-7日, 横浜市, 口演.
- 20) 力山敏樹: 高齢者の外科疾患の手術. 第35回埼玉県外科医会学術講演会, 2020年2月22日, 越谷市, シンポジスト.
 - 21) 相澤栄俊、野田弘志、高橋 洵、伊関雅裕、渡部文昭、加藤高晴、田中 亨、力山敏樹: 癌原発大細胞神経内分泌癌の1切除例. 第72回日本消化器画像診断会, 2020年2月29日, さいたま市, 紙上開催.
 - 22) 池田太郎: 小児鼠経ヘルニア腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア閉鎖(LPEC)について. 第5回埼玉ヘルニア研究会, 2020年3月7日, さいたま市, 紙上開催.
 - 23) 野田弘志、力山敏樹: 当科における膵癌術後長期成績と予後規定因子の検討. 第54回大宮医学総会, 2020年3月14日, さいたま市, 開催中止.

【著書 総説】

- 1) 中村剛史、浜端賢次、遠山信幸、木下英孝、鎌村好孝、松村正巳: 地域での生き方と逝き方. 特集(1): 第11回地域医療フォーラム2018: 人生100年時代における地域. 医療と検査機器・試薬, 社会と地域医療~現場から考える~, 42(2), 90-93, 2019.
- 2) 遠山信幸: 医療過誤の現状と対策~医療事故調査制度について~, セミナー ラジオNIKKEI 心臓財団虚血性心疾患セミナー. 心臓, 51(8), 870-873, 2019.
- 3) 遠山信幸: インシデント報告に対する医師、特に研修医・若手医師へのアプローチ. 患者安全推進ジャーナル 58, 29-34, 2019.
- 4) 遠山信幸: フィードバックで促す研修医のインシデント報告. 週刊医学界新聞 3337号, 4-5, 2019.

【その他】

- 1) 力山敏樹: 第8回埼玉肝胆膵手術手技勉強会, 2019年11月1日, さいたま市, 主催.
- 2) 力山敏樹: 5th DryLabトレーニング, 2019年11月9日, センター, 主催.
- 3) 辻仲眞康: 骨盤手術における大腸肛門外科の役割. 令和元年度第12回大宮医師会医学講座, 2019年11月19日, さいたま市, ミニレクチャー講師.
- 4) 力山敏樹: 消化器がん治療における現状と今後の展望. 第2回さいたま地域消化器がん診療懇話会, 2019年11月27日, さいたま市, 講演.
- 5) 遠山信幸: 医療安全管理活動の取り組み. 関東信越厚生局 医療安全ワークショップ, 2019年12月2日, さいたま市, 講演.
- 6) 遠山信幸: 医療安全に係る報告基準設定の意義と活用. JCHO医療安全講演会, 2019年12月11日, 東京, 講演.
- 7) 遠山信幸: 患者安全の体制確保のために. 千葉県

- 立病院合同医療安全研修, 2019年12月21日, 千葉市, 口演.
- 8) 力山敏樹: 女性外科医の育成とワークシェア・ワークライフバランス. 埼玉県医師会・令和元年度 女性医師の勤務環境の整備に関する 病院長、病院開設者・管理者等への講習会, 2020年1月23日, さいたま市, 講演.
 - 9) 力山敏樹: 女性外科医の育成とワークシェア・ワークライフバランス. 徳島県医師会 令和元年度 女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者への講習会, 2020年1月24日, 徳島市, 講演.
 - 10) 力山敏樹: 現代医療における大学の役割 地域医療の現状 医師を志すにあたって. 宮城県仙台第二高等学校 令和元年度 医進会講演会, 2020年1月31日, 仙台市, 講演.
 - 11) 力山敏樹: 第12回さいたま鏡視下手術手技セミナー, 2020年2月8日, 東京, 主催.
 - 12) 力山敏樹: 第72回日本消化器画像診断会, 2020年2月29日, さいたま市, 当番世話人 紙上開催.
 - 13) 辻仲眞康: 第5回埼玉ヘルニア研究会, 2020年3月7日, さいたま市, 当番世話人, 紙上開催.

■ 心臓血管外科

【学会発表】

- 1) 今村有佑、安達晃一、中村宜由、進士弥央: 胸骨骨髄炎後における低侵襲大動脈弁置換術の2例. 第181回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2019年11月9日, 東京
- 2) 山本貴裕、橋本和憲、佐藤哲也、伊藤 智: 心筋心膜炎加療後に上行大動脈の感染性動脈瘤を発症し手術を要した1例. 第181回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2019年11月9日, 東京
- 3) 宮川敦志、北田悠一郎、荒川 衛、岡村 誉、安達秀雄: 術前対麻痺を伴う急性A型大動脈解離に対してfro-zen elephant trunkを使用した上行弓部大動脈置換術を行い、術後対麻痺の改善傾向を認めた1症例. 第181回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2019年11月9日, 東京
- 4) 中村宜由、安達晃一、進士弥央、今村有佑、中田弘子: 左臍胸術後、心不全を伴う冠動脈病変に対してMIDCAB (LITA-LAD) を実施した1例. 第181回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2019年11月9日, 東京
- 5) 北田悠一郎、宮川敦志、荒川 衛、岡村 誉、安達秀雄: 若年女性の巨大左房腫瘍に対してMICS手術を施行した1例. 第181回日本胸部外科学会

関東甲信越地方会、2019年11月9日、東京

- 6) 三好康介、堀大治郎、草刈 翔、由利康一、木村直行、白石 学、山口敦司：右中大脳動脈塞栓による広範囲脳梗塞に対する開頭減圧術後、早期手術を施行した感染性心内膜炎の1例。第181回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、2019年11月9日、東京
- 7) 藤井健人、草刈 翔、清水寿和、堀大治郎、白石 学、木村直行、由利康一、山口敦司：上行大動脈人工血管置換術後の巨大吻合部瘤で気道狭窄をきたした一例。第181回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、2019年11月9日、東京
- 8) 森田英幹、住吉 力、白杉岳洋：当院における胸腔鏡下左心耳切除術（WOLF-OHTSUKA法）の導入。第34回心臓血管外科ウインターセミナー学術集会、2020年2月12日-14日、岩手
- 9) 清水寿和、堀大治郎、篠田大悟、草刈 翔、野村陽平、野中崇央、白石 学、木村直行、山口敦司：Shaggy aortaを合併した弓部大動脈瘤に対する弓部人工血管置換術において脳分離送血を工夫し脳合併症を回避した症例。第34回心臓血管外科ウインターセミナー学術集会、2020年2月12日-14日、岩手
- 10) 中村宜由、安達晃一、進士弥央：当院での10年間に於ける急性A型大動脈解離の手術成績比較。第34回心臓血管外科ウインターセミナー学術集会、2020年2月12日-14日、岩手

■ 整形外科

【学会発表】

- 1) 山中卓哉、朔伊作、秋山達：40mmの転位を生じ手術を行った下前腸骨棘裂離骨折の1例。第30回日本臨床スポーツ医学会学術集会、2019.11.16-17、横浜
- 2) 山中卓哉、稲田智、張劉喆、望月貴夫、秋山達：プレガバリン持続投与不耐性患者におけるミロガバリンの有効性。第12回日本運動器疼痛学会、2019.11.30-12.1、東京
- 3) 稲田智、張劉喆、山中卓哉、朔伊作、秋山達：神経本幹発生神経鞘腫に対する核出術の当センターの成績。第12回日本運動器疼痛学会、2019.11.30-12.1、東京
- 4) 張劉喆、秋山達、福島崇、岩田慎太郎、田中栄、竹下克志、川井章、小林寛：診断時点で転移巣を有する非円形細胞軟部肉腫に対し原発巣の切除手術は予後を改善する。第3回日本サルコーマ治療研究学会学術集会、2020.2.21-22、大阪

■ 泌尿器科

2019年11月～2020年4月

【原著論文（英論文および和論文）】

- 1) Washino S, Rider LC, Romero L, Jillson LK, Affandi T, Ohm AM, Lam ET, Reyland ME, Costello JC, Cramer SD. Loss of MAP3K7 Sensitizes Prostate Cancer Cells to CDK1/2 Inhibition and DNA Damage by Disrupting Homologous Recombination. Mol Cancer Res. 2019 Oct ; 17 (10) :1985-1998.
- 2) 宮川友明、藤村哲也、ロボット支援前立腺全摘除におけるレチウス腔温存アプローチ、泌尿器外科 32 (9) :1143-48 2019
- 3) Sato H, Abe H, Ikeda A, Miyagawa T, Sato K. Complications and clinical outcomes of laparoscopic sacrocolpopexy for pelvic organ prolapse. J Obstet Gynaecol. Mar 9:1-5. doi: 10.1080/01443615.2020.

【学会発表】

- 1) 早瀬貴徳、矢崎海、中村勇貴、大島将、小西鼓、齊藤公俊、鷺野聡、宮川友明、ニボルマブ・イピリブマブ併用療法による間質性肺炎と下垂体炎を併発した1例、第83回日本泌尿器科学会埼玉地方会、2019年11月15日、川越市
- 2) 齊藤公俊、宮川友明、早瀬貴徳、眞弓翔三朗、矢崎海、中村勇貴、大島将、小西鼓、鷺野聡、荒井好昭、中葉肥大を伴う症例に対するRetzius-Sparing RARPの経験、第33回日本泌尿器内視鏡学会総会、2019年11月21～23日、京都市
- 3) 宮川友明、斎藤公俊、大島将、小西鼓、中村勇貴、矢崎海、早瀬貴徳、眞弓翔三朗、鷺野聡、荒井好昭、RS-RARPを“三方よし”とするために－癌制御・尿禁制・鼠経ヘルニア予防の観点から－、第33回日本泌尿器内視鏡学会総会、2019年11月21～23日、京都市
- 4) 宮川友明、齊藤公俊、レチウス温存ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術（RS-RARP）の適応拡大への課題、第32回日本内視鏡外科学会総会、2019年12月5～7日、横浜市
- 5) 宮川友明、齊藤公俊、大島将、小西鼓、中村勇貴、矢崎海、早瀬貴徳、眞弓翔三朗、鷺野聡、荒井好昭、術後早期尿禁制維持の一方法：レチウス腔温存ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術（RS-RARP）、第12回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会学術集会、2019年12月22日、東京

- 6) 早瀬貴徳、中村勇貴、大島将、小西鼓、齊藤公俊、鷺野聡、宮川友明、土橋洋、田中亨、前立腺生検で診断が得られたMALT lymphomaの1例、第84回日本泌尿器科学会埼玉地方会、2020年2月8日、川越市

【その他】

- 1) 中村勇貴、一般演題「RARP術後の吻合部狭窄の検討」、栃木・埼玉泌尿器疾患セミナー、2019年11月8日、宇都宮市
- 2) 宮川友明、特別講演「手術支援ロボットdaVinciによる泌尿器科手術」、令和元年度第12回大宮医師会医学講座、2019年11月19日、さいたま市
- 3) 早瀬貴徳、一般演題「ニボルマブ・イピリムマブ併用療法によるirAEを発症した2症例、さいたま免疫療法セミナー、2019年12月4日、さいたま市
- 4) 宮川友明、講演1「低侵襲・機能温存を目指したロボット支援手術：RS-RARPとRARC/ICUD」、東毛Urology seminar、2020年1月24日、群馬県太田市
- 5) 鷺野聡、一般講演1「高血圧と夜間頻尿」、第26回埼玉排尿障害セミナー、2020年1月31日、さいたま市

【著者 総説】

- 1) 宮川友明、ストーマ管理にかかわるトラブル&リカバリー、Uro-Lo Vol24 (6) 70-72 2019

■ 耳鼻咽喉科

【原著論文】

- 1) Oda K, Yamamoto H, Kobayashi T, Hidaka H, Ikeda R, Yoshida N.: Hearing Recovery After Ejection of Air in a Case of Traumatic Pneumolabyrinth: Mechanism and Management Options. *Otol Neurotol*.2020 Mar;41 (3) :359-363. doi:10.1097/MAO.0000000000002538. PubMed PMID: 31821260.
- 2) Oka A, Ninomiya T, Fujiwara T, Takao S, Sato Y, Gion Y, Minoura A, Haruna SI, Yoshida N, Sakuma Y, Izuhara K, Ono J, Taniguchi M, Haruna T, Higaki T, Kariya S, Koyama T, Takabayashi T, Imoto Y, Sakashita M, Kidoguchi M, Nishizaki K, Fujieda S, Okano M.: Serum IgG4 as a biomarker reflecting pathophysiology and post-operative recurrence in chronic rhinosinusitis. *Allergol Int*. 2020 Jan 14;pii: S1323-8930 (19) 30201-1. doi: 10.1016/j.alit.2019.12.004. PubMed PMID: 31952913.

■ 眼科

【原著論文】

- 1) 山口亜矢, 渡辺綾子, 佐藤智美, 長谷川哲也, 小橋智恵子, 平戸岬, 齊藤恵美, 田中克明, 高野博子, 梯彰弘: 4年以上5年未満の経過を追えた, 網膜色素変性のFunctional Vision Score (FVS) による視機能評価. *日本ロービジョン学会誌*19:81-87, 2019
- 2) Shirahama S, Kaburaki T, Takada S, Nakahara H, Tanaka R, Komae K, Fujino Y, Kawashima H, Aihara M: Comparison of visual field defect progression in secondary Glaucoma due to anterior uveitis caused by three types of herpes viruses. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 258, 639-645, 2020
- 3) Kaburaki T, Fukunaga H, Tanaka R, Nakahara H, Kawashima H, Shirahama S, Izawa H, Komae K, Takamoto M, Soga H, Aihara M: Retinal vascular inflammatory and occlusive changes in infectious and non-infectious uveitis. *Jpn J Ophthalmol* 64, 150-159, 2020
- 4) Fukunaga H, Kaburaki T, Shirahama S, Tanaka R, Murata H, Sato T, Takeuchi M, Tozawa H, Urade Y, Katsura M, Kobayashi M, Wada Y, Soga H, Kawashima H, Kohro T, Aihara M: Analysis of inflammatory mediators in the vitreous humor of eyes with pan-uveitis according to aetiological classification. *Sci Rep* 10 (1): 2783, 2020

【学会発表】

- 1) 蕪城俊克: 眼炎症疾患の最近の進歩 - 全身治療の進歩 -. 第124回日本眼科学会総会, サブセッションリサイクラー 9, SS09-4, 2020年4月27日-5月10日 (Web開催)
- 2) 三原現, 田中理恵, 小前恵子, 中原久恵, 伊沢英知, 白濱新多朗, 曾我拓嗣, 小野久子, 蕪城俊克: ANCA関連血管炎に伴う強膜炎14例の臨床像. 第124回日本眼科学会総会, 02-141, 2020年4月27日-5月10日 (Web開催)
- 3) 日下部茉莉, 田中理恵, 小前恵子, 伊沢英知, 田岡和城, 中原久恵, 白濱新多朗, 相原一, 川島秀俊, 蕪城俊克: 眼内悪性リンパ腫の網膜病変の有無と臨床像の関連性. 第124回日本眼科学会総会, 02-144, 2020年4月27日-5月10日 (Web開催)

【総説】

- 1) 蕪城俊克: 眼内悪性リンパ腫の病態と治療. *月刊カレントセラピー* 38 (2), 159-163, 2020

■ 産婦人科

【原著論文】

- 1) Oide S, Kuwata T, Wang L, Imai K, Chikazawa K, Horiuchi I, Takagi K, Konno R : Incidence of residual bacterial contamination of transvaginal ultrasound probes. J Med Ultrason (2001). 46 (4): 475-479, 2019

【学会発表】

- 1) 近澤研郎、根津幸穂、今井 賢、石黒 彩、伊東孝晃、桑田知之、今野 良：当院の子宮体癌腹腔鏡手術の中期成績と再発リスク因子としてのVolume index \geq 36の有用性. 第96回埼玉産科婦人科学会 埼玉県産婦人科医会令和元年度後期学術集会、2019年11月9日、さいたま
- 2) 今野 良：HPVワクチンによる20歳代女性のCIN 3 予防効果. 第4回日本HPV研究会学術集会、2019年11月30日、東京
- 3) 今野 良：Evening Seminar HPV診断法としてのCINTecPlus (P16およびKi67免疫細胞化学) およびCINTec (免疫細胞化学). 第4回日本HPV研究会学術集会、2019年11月30日、東京
- 4) Konno R. : HPV vaccine against CIN 3+ is also highly effective in Japan, but still suspended. EUROGIN 2019 (International Multidisciplinary HPV Congress), Dec 4-7 2019, Monaco

【著書・総説】

- 1) 今野 良：子宮頸がん検診（細胞診とHPV検査）ならびにHPVワクチンの適切な理解－3～5年後を考える. 青森県臨床細胞学会雑誌, 36 :2-11. 2019

【その他】

- 1) 今野 良：HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンの誤解を乗り越え、検診と予防接種の両方で癌を征圧. 第31回新潟県がん検診研究会総会、2019年12月17日、新潟
- 2) 今野 良：子宮頸がん（HPV）ワクチンは効く？副作用は怖い？日本社会の誤解が悲劇を招く. 第16回八戸地区思春期問題連絡懇談会、2020年2月8日、青森

■ 皮膚科

2019.11～2020.4

【学会発表】

- 1) 高澤摩耶、梅本尚可、山田朋子、川瀬正昭、田中

亨、出光俊郎、伊東慶悟：初診時悪性黒色腫も考えた黒色調の肛門腺由来肛門癌続発性Paget病の1例. 第88回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会、2019年11月16-17日、東京

- 2) 藤井鷹矢、川瀬正昭、高澤摩耶、出光俊郎：汎発性扁平苔癬の1例. 第88回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会、2019年11月16-17日、東京
- 3) 松本崇直、福井伶奈、野口友里、高澤摩耶、梅本尚可、山田朋子、川瀬正昭、岡木 啓、石黒 彩、王良誠、高木健次郎、石井文人、出光俊郎：30歳初産婦の妊娠性類天疱瘡一出産後、児にも水疱を生じた難治例一. 第41回水疱症研究会. 2020年1月10-11日、松山市
- 4) 竹下雅子、阿部佳奈美、松本崇直、高澤摩耶、梅本尚可、川瀬正昭、山田朋子、古賀浩嗣、石井文人、出光俊郎：VII型コラーゲンが主要標的抗原と考えられた粘膜類天疱瘡の1例. 第41回水疱症研究会. 2020年1月10-11日、松山市
- 5) 福井伶奈、山田朋子、出光俊郎：蛍光抗体直接法で真皮表皮境界部にIgGとIgAの線状沈着を認めた頭部に限局したびらん性局面の1例. 第41回水疱症研究会. 2020年1月10-11日、松山市
- 6) 竹下雅子、山田朋子、福井伶奈、松本崇直、高澤摩耶、塚原理恵子、梅本尚可、川瀬正昭、出光俊郎：広範囲に皮膚硬化を認めたgeneralized morpheaの1例. 日本皮膚科学会第888回東京地方会、2020年1月18日、東京
- 7) 茂木美月、福井伶奈、松本崇直、高澤摩耶、梅本尚可、川瀬正昭、出光俊郎：軽症の眼病変を伴い、Stevens Johnson Syndrome (SJS) との鑑別が問題となった多型紅斑重症型の1例. 第57回埼玉県医学会総会、2020年2月23日、さいたま市
- 8) 渡邊晶子、高澤摩耶、野口友里、松本崇直、梅本尚可、川瀬正昭、出光俊郎：骨髄性増殖性疾患でハイドロキシウレア内服投与中に発症した下腿皮膚潰瘍を生じた1例. 第57回埼玉県医学会総会、2020年2月23日、さいたま市

【原著論文】

- 1) 宮田聡子、出光俊郎：アトピー性皮膚炎の難治症例の治療例. 皮膚科の臨床61 (6) :995-1002, 2019.
- 2) 牧 伸樹、石田昭雄、出光俊郎：あきた病院（秋田神経難病医療センター）における入院患者の爪真菌症の集計. 日本臨床皮膚科医会雑誌36 (3) : 388-394, 2019.
- 3) Demitsu T, Nakamura S, Takazawa M, Kakurai M, Umemoto N, Kawase M: Axillary granular parakeratosis with osmidrosis successfully

treated with topical maxacalcitol. *J Dermatol* 46 (5) : e155-e157, 2019.

- 4) Demitsu T, Yamada T, Umemoto N, Kakurai M, Maeda T, Harada K, Kawase M: Disseminated dermatophytosis due to *Nannizzia gypsea* (*Microsporum typseum*) in an elderly patient. *J Dermatol* 46 (5) : e169-e-170, 2019.
- 5) Matsumoto T, Nakamura S, Ishii N, Umemoto N, Kawase M, Demitsu T, Hashimoto T: Erythrodermic linear IgA/IgG bullous dermatosis: report of a case. *Eur J Dermatol* 29 (2) :220-221, 2019.
- 6) 高澤摩耶、梅本尚可、山田朋子、酒井利育、出光俊郎、石井則久、川瀬正昭：病理で肉芽腫なくPCR陰性で、培養のみ陽性であった皮膚腺病の1例. *臨床皮膚科*74 (1) :73-78, 2020.
- 7) Kakurai M, Harada K, Maeda T, Hiruma J, Kano R, Demitsu T: Case of tinea corporis due to terbinafine-resistant *Trichophyton interdigitale*. *J Dermatol* 47 (4) :e104-e105, 2020.

【著書・総説】

- 1) 加倉井真樹：第Ⅷ章 感染症のトラブル対応 反復する柔道部員の体部白癬 ～トンスランス感染症～. 出光俊郎（編），皮膚科トラブル対応テキスト，文光堂，pp212-213, 2019.
- 2) 出光俊郎：粘膜疹とその関連疾患. 岩月啓氏（監）照井 正、石河 晃（編），標準皮膚科学第11版，医学書院，pp545-555, 2020 出光俊郎：Title P 皮膚. 浅野嘉延、吉山直樹（編），看護のための臨床病態学 改訂4版，南山堂，pp741-765, 2020.
- 3) 山田朋子：Your diagnosis? 再発性環状紅斑様乾癬. *Visual Dermatology* 19 (4), 434-436, 2020.

【その他】

- 1) 出光俊郎：書評「ここが大事！高齢者皮膚診療のコツとピットフォール」. *内科* 125 (1) :153, 2020.
- 2) 山田朋子：話題の薬剤 PDE4 阻害薬オテズラ錠の有用性について. 第51回 埼玉県皮膚科治療学会、2020年2月9日、さいたま市
- 3) 中村哲史：プラタナス～私のカルテから～ 私見“最近の疥癬-傾向と対策”. *日本医事新報*5008:3, 2020

■ 歯科口腔外科

【論文】

- 1) Watanabe H, Osano H, Naitou H, Mori Y: A case of cavernous hemangioma of the temporalis

muscle. *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology*. (In press)

【学会発表】

- 1) 早坂純一、去川俊二、作山 葵、中野崇文、杉浦康史、林 宏栄、佐瀬美和子、野口忠秀、神部芳則、伊藤弘人、草間幹夫、森 良之：下顎再建における有用な移植骨配置デザイン法. 第36回日本口腔腫瘍学会・学術総会 東京 2020年1月23日-24日
- 2) 坂口もも子、中野崇文、渡部準也、中里真琴、田畑 純：ラット切歯エナメル器の構成細胞の識別：基質形成期にあらわれる早期出現の乳頭層細胞と初代培養における特異性. 第125回日本解剖学会総会・全国学術総会山口 2020年3月25日-27日
- 3) 渡邊秀紀、小佐野仁志、内藤浩美、森 良之：下顎臼歯部に生じた腺性歯源性嚢胞の1例. 第74回NPO法人 日本口腔科学会・学術集会（インターネット学術集会）2020年4月15日-5月15日

■ 周産期科・母体部門

【原著論文】

- 1) Oide S, Kuwata T, Wang L, Imai K, Chikazawa K, Takagi K : Placental mesenchymal dysplasia with a good outcome:A case report. *The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research* vol.45 no.11 : 2284-2288, 2019
- 2) Wang L, Ikeda T, Takagi K : Prenatal diagnosis of fetal bowel strangulation. *Ultrasound in Obstetrics & Gynecology* doi: 10.1002/uog. 21896, 2019
- 3) Wang L, Shimizu E, Ikeda T, Ishiguro A, Irie Y, Ko H, Horiuchi I, Chikazawa K, Imai K, Kuwata T, Takagi K : Huge fetal ovarian cyst. *Clinical case reports* 2020

【学会発表】

- 1) 高木健次郎、王良誠、石黒彩、木村あずさ、大森恵、入江佑子、堀内功、桑田知之：胎児心拍数モニター基線細変動の定量的評価法の試み.第72回日本産科婦人科学会学術講演会、2020年4月23-28日. 東京
- 2) 松本崇直、福井伶奈、野口友里、高澤摩耶、梅本尚可、山田朋子、川瀬正昭、岡木啓、石黒彩、王良誠、高木健次郎：30歳初産婦の妊娠性類天疱瘡-出生後、児にも水疱を生じた難治例.第41回水疱瘡研究会、2020年1月10-11日. 松山
- 3) Ko H, Wang L, Ishiguro A, Kimura A, Omori M,

- Irie Y, Imai K, Chikazawa K, Horiuchi I, Kuwata T, Konno R, Takagi K : Hyperbaric area index, a novel method to predict outcome of patients with hypertension disorder pregnancy. The 72nd Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology 23-26 April, 2020 Tokyo
- 4) Kimura A, Wang L, Ko H, Ishiguro A, Omori M, Irie Y, Imai K, Chikazawa K, Horiuchi I, Kuwata T, Konno R, Takagi K : Intrauterine balloon tamponade failure due to lower uterine segment atony: a case report. The 72nd Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology 23-26 April, 2020 Tokyo
- 5) Okaki H, Wang L, Ishiguro A, Kimura A, Irie Y, Omori M, Imai K, Chikazawa K, Horiuchi I, Kuwata T, Konno R, Takagi K : Herpes gestationis: A severe case that affected the neonate. The 72nd Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology 23-26 April, 2020 Tokyo
- 6) Shimizu E, Wang L, Kimura A, Ko H, Ishiguro A, Irie Y, Imai K, Chikazawa K, Horiuchi I, Kuwata T, Konno R, Takagi K : Fetal abdominal circumference and feasibility of vaginal delivery in pregnancy with huge fetal ovarian cyst. The 72nd Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology 23-26 April, 2020 Tokyo
- 7) Wang L, Ishiguro A, Ko H, Omori M, Kimura A, Irie Y, Chikazawa K, Imai K, Horiuchi I, Kuwata T, Konno R, Takagi K : Prenatal ultrasound diagnosis of fetal bowel strangulation. The 72nd Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology 23-26 April, 2020 Tokyo
- Kusakawa I, Ibara S: Neonatal Resuscitation Committee. Summary of Japanese Neonatal Cardiopulmonary Resuscitation Guidelines 2015. *Pediatr Int* 62:128-139, 2020
- 3) Kato R, Hosono S, Takahashi S: Reference Value of Brain Tissue Oxygen Saturation in Newborns Immediately After Birth. *Adv Exp Med Biol* 21232: 19-24, 2020
- 4) Soar J, Maconochie I, Wyckoff MH, Olasveengen TM, Singletary EM, Greif R, Aickin R, Bhanji F, Donnino MW, Mancini ME, Wyllie JP, Zideman D, Andersen LW, Atkins DL, Aziz K, Bendall J, Berg KM, Berry DC, Bigham BL, Bingham R, Couto TB, Böttiger BW, Borra V, Bray JE, Breckwoldt J, Brooks SC, Buick J, Callaway CW, Carlson JN, Cassan P, Castrén M, Chang WT, Charlton NP, Cheng A, Chung SP, Considine J, Couper K, Dainty KN, Dawson JA, de Almeida MF, de Caen AR, Deakin CD, Drennan IR, Duff JP, Epstein JL, Escalante R, Gazmuri RJ, Gilfoyle E, Granfeldt A, Guerguerian AM, Guinsburg R, Hatanaka T, Holmberg MJ, Hood N, Hosono S, Hsieh MJ, Isayama T, Iwami T, Jensen JL, Kapadia V, Kim HS, Kleinman ME, Kudenchuk PJ, Lang E, Lavonas E, Liley H, Lim SH, Lockey A, Lofgren B, Ma MH, Markenson D, Meaney PA, Meyran D, Mildenhall L, Monsieurs KG, Montgomery W, Morley PT, Morrison LJ, Nadkarni VM, Nation K, Neumar RW, Ng KC, Nicholson T, Nikolaou N, Nishiyama C, Nuthall G, Ohshimo S, Okamoto D, O'Neil B, Ong GY, Paiva EF, Parr M, Pellegrino JL, Perkins GD, Perlman J, Rabi Y, Reis A, Reynolds JC, Ristagno G, Roehr CC, Sakamoto T, Sandroni C, Schexnayder SM, Scholefield BR, Shimizu N, Skrifvars MB, Smyth MA, Stanton D, Swain J, Szyld E, Tijssen J, Travers A, Trevisanuto D, Vaillancourt C, Van de Voorde P, Velaphi S, Wang TL, Weiner G, Welsford M, Woodin JA, Yeung J, Nolan JP, Hazinski MF: 2019 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations. *Resuscitation* 145: 95-150, 2019
- 5) Soar J, Maconochie I, Wyckoff MH, Olasveengen TM, Singletary EM, Greif R, Aickin R, Bhanji F, Donnino MW, Mancini ME, Wyllie JP, Zideman D, Andersen LW, Atkins DL, Aziz K, Bendall J, Berg KM, Berry DC, Bigham BL, Bingham R, Couto TB, Böttiger BW, Borra V, Bray JE, Breckwoldt J, Brooks SC,

【著書 総説】

- 1) 高木健次郎：妊娠高血圧症候群の新たな定義・分類。腎と透析 87巻5号 東京医学社, 2019年11月, 777-781

■ 周産期科・新生児部門

【原著論文】

- 1) Kayama K, Hosono S, Yoshikawa K, Kato R, Seimiya A, Fuwa K, Hijikata M, Aoki R, Okahashi A, Nagano N, Morioka I: Heart rate evaluation using fetal ultrasonic Doppler during neonatal resuscitation. *Pediatr Int.* 2020 [Epub ahead of print]
- 2) Hosono S, Tamura M, Isayama T, Sugiura T,

Buick J, Callaway CW, Carlson JN, Cassan P, Castrén M, Chang WT, Charlton NP, Cheng A, Chung SP, Considine J, Couper K, Dainty KN, Dawson JA, de Almeida MF, de Caen AR, Deakin CD, Drennan IR, Duff JP, Epstein JL, Escalante R, Gazmuri RJ, Gilfoyle E, Granfeldt A, Guerguerian AM, Guinsburg R, Hatanaka T, Holmberg MJ, Hood N, Hosono S, Hsieh MJ, Isayama T, Iwami T, Jensen JL, Kapadia V, Kim HS, Kleinman ME, Kudenchuk PJ, Lang E, Lavonas E, Liley H, Lim SH, Lockey A, Lofgren B, Ma MH, Markenson D, Meaney PA, Meyran D, Mildenhall L, Monsieurs KG, Montgomery W, Morley PT, Morrison LJ, Nadkarni VM, Nation K, Neumar RW, Ng KC, Nicholson T, Nikolaou N, Nishiyama C, Nuthall G, Ohshimo S, Okamoto D, O'Neil B, Yong-Kwang Ong G, Paiva EF, Parr M, Pellegrino JL, Perkins GD, Perlman J, Rabi Y, Reis A, Reynolds JC, Ristagno G, Roehr CC, Sakamoto T, Sandroni C, Schexnayder SM, Scholefield BR, Shimizu N, Skrifvars MB, Smyth MA, Stanton D, Swain J, Szyld E, Tijssen J, Travers A, Trevisanuto D, Vaillancourt C, Van de Voorde P, Velaphi S, Wang TL, Weiner G, Welsford M, Woodin JA, Yeung J, Nolan JP, Fran Hazinski M: 2019 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations: Summary From the Basic Life Support; Advanced Life Support; Pediatric Life Support; Neonatal Life Support; Education, Implementation, and Teams; and First Aid Task Forces. *Circulation* 140 (24) : e826-e880, 2019

【学会発表】

- 1) 佐藤千穂, 佐藤洋明, 河野惇子, 市橋光, 細野茂春: *Streptococcus gallolyticus* subsp. *pasteurianus* を起炎菌と同定した新生児細菌性髄膜. 第64回日本新生児成育医学会・学術集会, 2019年11月27-29日, 鹿児島
- 2) 杉浦崇浩, 岩永甲午郎, 加藤丈典, 福原里恵, 水本洋, 安田真之, 柳貴英, 諫山 哲哉, 草川功, 細野茂春: 新生児蘇生法委員会新フォローアップコースワーキンググループ: 新生児蘇生法インストラクターフォローアップトリアルコースの検証. 第64回日本新生児成育医学会・学術集会, 2019年11月27-29日, 鹿児島
- 3) 細野茂春: 教育委員会企画セミナー. 研究テーマを見つけて論文作成のための最初の一步. 第64回日本新生児成育医学会・学術集会, 2019年11月27-29日, 鹿児島

【その他】

- 1) 細野茂春: ランチョンセミナー「血液ガス分析の基本と応用－経皮ガスモニターとの使い分け」. 第64回日本新生児成育医学会・学術集会, 2019年11月27-29日, 鹿児島

【総 説】

- 1) 細野茂春: 赤ちゃんの呼吸がときどき止まってしまうのが心配なのですが? 周産期相談310 お母さんへの回答マニュアル 第3版 周産期医学49巻増刊号 東京医学社, 2019, 434-435,
- 2) 菅原大輔, 佐藤洋明, 細野茂春: おっぱいが大きくなってきましたが大丈夫でしょうか? 周産期相談310 お母さんへの回答マニュアル 第3版 周産期医学 49巻増刊号 東京医学社, 2019, 423-424
- 3) 河野惇子, 細野茂春: 赤ちゃんのおっぱいから白い液が出るのですが大丈夫でしょうか? 周産期相談310 お母さんへの回答マニュアル第3版 周産期医学 49巻増刊号 東京医学社, 2019, 420-422
- 4) 佐藤千穂, 細野茂春: ときどき黒目が下のほうに沈んでしまうことがありますか? 周産期相談310 お母さんへの回答マニュアル 第3版 周産期医学49巻増刊号 東京医学社, 2019, 355-356
- 5) 丸山麻美, 細野茂春: 生まれたときから顔面が赤黒く点々がありますがきれいになりますか? 周産期相談310 お母さんへの回答マニュアル 第3版 周産期医学49巻増刊号 東京医学社, 2019, 349-350
- 6) 細野茂春: NCPR. 月刊地域医学 Vol.33 (11) メディカルサイエンス社, 2019, 928-929,

【著 者】

- 1) 細野茂春: 第3章アルゴリズム NCPRアルゴリズムと救急隊および救急救命士教育でのアルゴリズムの違い. 病院前新生児蘇生法テキスト 細野茂春(監修) メディカ出版, 2020, pp85-89
- 2) 細野茂春: 第7章模擬問題 病院前新生児蘇生法テキスト 細野茂春(監修) メディカ出版, 2020, pp131-141
- 3) 細野茂春: 第8章新生児蘇生法普及事業 病院前新生児蘇生法テキスト 細野茂春(監修) メディカ出版, 2020, pp143-150

■ 臨床検査部

病理業績 2019年11月から2020年4月(令和元年11月から令和2年4月)

【学会発表】

- 1) 河野哲也, 関根匡成, 山田茂樹, 田中亨: 「当セ

ンターにおける超音波内視鏡穿刺吸引法の試験的迅速検査への取り組み」. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 2019年11月16日, 岡山

■ 臨床工学部

2019年11月～2020年4月まで

【学会発表】

- 1) 梅田千典、百瀬直樹、草浦理恵、岡田ひとみ、田中杏実、山口敦司：災害時に自動車用バッテリーで植込み型補助人工心臓が駆動できるか. 第57回日本人工臓器学会大会2019/11/15大阪

【著者 総説】

- 1) 百瀬直樹：人工心肺の安全管理とトラブルシューティング. 体外循環装置 第二版,2020/01/10,医歯薬出版, 195-216, 2019

【その他】

- 1) 梅田千典、百瀬直樹、草浦理恵、小久保領、安田徹、岩本典生、松田考平、岡田ひとみ、田中杏実、山口敦司：JSAOシンポジウム3 MEシンポジウム：補助循環 MCSにおける臨床工学技士の役割、臨床工学技士が直面する補助循環デバイスにおける問題と対応. 第57回日本人工臓器学会大会, 2019/11/15, 大阪
- 2) 百瀬直樹：補助循環 MCSにおける臨床工学技士の役割「開胸下での急変時に体お言うことができるMini Circuitの開発とその実際」. 第57回日本人工臓器学会大会, 2019/11/15, 大阪国際会議場

■ 栄養部

【学会発表】

- 1) 椎名美知子、堀内由布子、宮原摩耶子、竹見奈々、青山智香、中原忍、浪川愛子、木造佳那子、小島幸恵、猪野瀬渚、村越美穂、大河原晋：体験型減塩教室の取り組み. 第23回日本病態栄養学会年次学術集会, 2020年1月24～26日、京都
- 2) 宮原摩耶子、村越美穂、椎名美知子、堀内由布子、中原忍、浪川愛子、木造佳那子、猪野瀬渚、竹見奈々、青山智香、小島幸恵、伊藤聖学、大河原晋：糖尿病腎症患者の認知機能と食事療法の実践について. 第23回日本病態栄養学会年次学術集会, 2020年1月24～26日、京都

【その他】

- 1) 猪野瀬渚：CKDのチーム医療～腎臓病療養指導士

としての取り組み～. さいたま市腎疾患対策講演会 2020～腎臓病療養指導士制度を活用した今後の腎疾患対策について、2020年2月17日、さいたま

- 2) 宮原摩耶子：ライフスタイルに合わせた実践栄養指導. 糖尿病治療勉強会～糖尿病治療における食事と薬物療法～、2020年2月20日、さいたま

編集後記

今回の発行にあたりお忙しい中、鈴木先生には巻頭言のご執筆を頂きましてありがとうございました。

また、多くの診療科よりご投稿頂きましてありがとうございました。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除されほっとしたのも束の間、また最近感染者が増えてきています・・・。

先日不安と喜び半々の中、息子の野球の公式戦が始まりました。球場入りしたスタンドから見る景色は見慣れた風景でありながら、とても懐かしく感じました。

当たり前に出ていた応援が制約される中（マスク着用・声だし禁止・ソーシャルディスタンス・・・）、元気にプレーをする子ども達の姿を見ながら、早くいつもの日常生活が戻りますようにと願うばかりでした。



自治医科大学附属さいたま医療センター 研究だより 第55号

発行日 令和2年7月22日
発行 自治医科大学附属さいたま医療センター
発行責任者 センター長 遠藤 俊輔
編集 事務部 総務課
研究室
〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847
TEL. 048-647-2111
FAX. 048-648-5166
題字 百村 伸一 前センター長

印刷 第一印刷(株)